

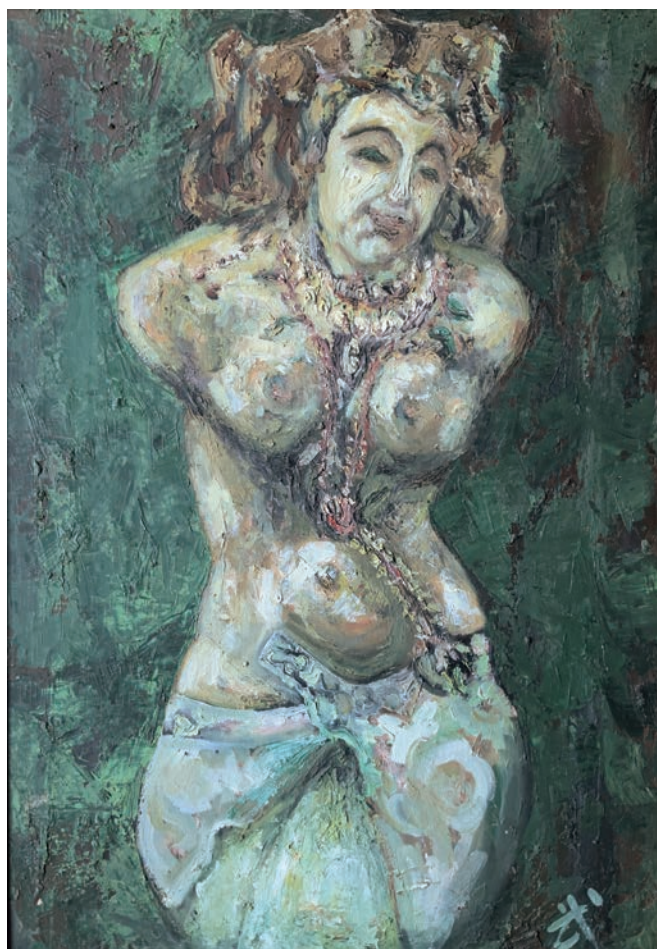
山口県医師会報

令和 5 年 (2023 年)

1 月号

— No.1949 —

新年特集号



炉辺談話

● 表紙の絵に寄せて

山陽小野田 坂部 武史

表紙「樹の精」



大学受験の時（1964年）、京都で開かれたインド古代美術展を観に行って、惹きつけられ、描いた絵です。インド神話に出てくる樹木の精霊で、菩薩か女神に近い像に思えます。

裏表紙「ランプと玉ねぎ」



医学生の時（1964年）、山口で6B会という絵画同好会に参加したときに、別の絵を描いていたキャンバスを潰して、一晩で描き上げました。暗い絵で新年号にはあまり相応しくないかもしれませんが、「ランプの精」が現れ、コロナウイルスを退治して、良い年をもたらしてくれればと思います。

Contents

■表紙の絵に寄せて	山陽小野田 坂部武史	2
-----------------	------------	---

■年頭所感

山口県医師会長 加藤智栄	4
日本医師会長 松本吉郎	6
山口県知事 村岡嗣政	8

炉 辺 談 話

プロ	徳 山 吉次興茲	10
あなたの地元はどこですか?	柳 井 織田哲至	12
俳句ギャラリー	徳医句会 (徳山医師会)	14
其恕乎	山口大学 しまふくろう	15
認知症予防 補聴器の導入	徳 山 中村和行	18
絵画ギャラリー	山口市 湧田幸雄	20
大愚良寛	徳 山 篠原淳一	22
コロナ禍と 3 年ぶりのベトナム	下 松 岩本 功	24
愛情 (相性、退場) 物語	下関市 塩見祐一	26
俳句ギャラリー	ふしの句会 (山口市医師会)	28
福岡国際マラソン選手権大会と共に 24 年間	萩 市 池本和人	30

■ 2023 年のスギ・ヒノキ花粉飛散の予測	沖中芳彦	32
■ 今月の視点「思春期診療とその課題」	河村一郎	36
■ フォトコンテスト審査会	長谷川奈津江	38
■ 県民公開講座「コツコツとやるべきことを」	石田 健	39
■ 令和 4 年度第 2 回 JMAT やまぐち災害医療研修会	上野雄史	42
■ 理事会会議録 (第 17 回)		46
■ 日医 FAX ニュース		49
■ お知らせ・ご案内		50
■ 編集後記	広報委員	54

年頭所感

山口県医師会長 加藤 智 栄



新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、新年を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

2020年1月15日に本邦第一例目の感染者の報告がなされて以来、一昨年、昨年と新型コロナウイルス感染症に振り回された感があります。昨年は第6波、第7波に見舞われ、第7波はオミクロン株BA.5によるもので、県内では、それまでの10倍規模の大きな感染状況でした（新規感染者数のピークは8月18日3,494人、療養者のピークは8月26日の2万3,694人）。重症化の頻度は低いが、感染力が絶大で、小児から高齢者までの全年齢層が罹患し、高齢者施設や医療機関もクラスターに見舞われました。また、医療スタッフにも感染者が出て、少ないスタッフで医療を継続しなければならなかったり、病棟閉鎖や外来休止の対応を余儀なくされたりしました。無症状者・軽症者が圧倒的に多く、95%ぐらいが自宅療養者又は宿泊療養者で、入院患者は最大病床利用率が62.7%で踏みとどまりました。発熱外来や診療・検査外来で対応していただいた先生方、入院治療で対応された先生方、ワクチン接種で貢献された先生方のご尽力に感謝申し上げます。

また、昨年は、ロシアのウクライナ侵攻に端を発した物価高騰にも見舞われました。国はこの対策として新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を創設し支援を打ち出しました。県医師会はこの交付金を活用した支援を県に強く要望し、11月補正予算で医療機関に対する支援を得ることができました。

10年間の県医師会における経験で、最もしなければならないと思ったことは、若手医師不足の解消です。何をするにも、人がいなければ上手くいきません。郡市医師会との懇談会や地域の病院との懇談会を持つと、どの地域でも医師が不足し、時間外救急が回らないとの話が出てきていました。実際に55歳以上の医師は比較的多くいますが、若手医師の不足は、医療費亡国論に端を発した1985年から2007年までの22年間における医学部の定員削減と、2004年に開始された新医師臨床研修制度で大学の求心力が弱まり、地方から都会への若手医師の流れの加速のためと分析しています。県医師会では、山口県での医師の働く環境が良くなるように、時間外救急に携わる医師にインセンティブを付与するような制度を創出するように県・行政に働きかけています。また、医師事務作業補助者の活用促進やスキルアップに向けた取り組みを2014年から継続して行っており、勤務医の負担軽減に役立っています。2024年から開始される医師の働き方改革も、人が増えることによってより良い方向での改革が進むと考えますので、なんとしても、若手医師を増やさなければなりません。医業継承も本格始動しなければなりません。医業承継に関しては、3年目の事業になりますが、マッチングを成功させ地域に必要な医療機関の存続を目指します。

日本医師会の代議員会で、松本日医新会長は医学部卒業後の5年間は会費免除の方針を出されましたので、県医師会でも会費の賦課徴収規程を変更し、より多く若手医師が医師会活動に参加してもらえるようにしました。

山口大学医学部との交流も、ごく限られたものになっていますが、昨年は山口大学医師会と県医師会との懇談会を開催し、県医師会活動への理解を得るとともに県医師会が大学に対して、可能な研究支援について協議をいたしました。今後、より一層連携を強め、山口県の医療を良くしていきたいと考えています。

以前より、医療が健全に発展するためには、どうしたらいいかを考えていました。最先端の良い医療を提供するためには、日本という国が経済発展するしかないと考えています。経済が好転し、保険収入が増加しないことには最先端の医療を取り入れていくことは困難になります。今の日本で需要があるのは医療と介護であるのに、抑制政策ばかりで、国内の医療産業を潰していると言いたいのです。高い医薬品や医療機器はほとんど外国から入ってきて、貿易赤字は 4 兆円を超えています。なぜ、需要がある医療・介護にヒト・モノ・カネをつぎ込まないのでしょうか。経済の専門家ではありませんが、需要のあるところに投資をしないから経済が発展しないのではないかと思います。企業の内部留保は 500 兆円を超え、個人資産も 2,000 兆円あり、世界一の対外純資産も 400 兆円を超えています。お金は、回ってこそ価値があると思っています。

ファイザーは世界の人々の健康に貢献するとともに莫大な利益を得ました。スイスは国際競争力ランキングで常にトップクラスです。スイスにはロシュやノバルティスといった大製薬企業があり、医薬品・化学は輸出の主力です。アジアの国々も高齢化していきます。高齢化では世界の最先端を行っている日本で、医療・介護産業を育てていけば日本の未来は明るくなると確信しています。

今年が、未来に希望が持てる年となることを祈念して新年の挨拶といたします。

年頭所感

日本医師会長 松本吉郎



明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。また、年明けの寿ぎも束の間に、昼夜を分かたず、新型コロナウイルス感染症をはじめ、あらゆる医療の現場でご尽力いただいている会員、医療従事者の皆様には心からの敬意と感謝申し上げます。

わが国の医療界が新型コロナウイルス感染症と向き合い始めて、丸三年の月日が経とうとしています。この間、会員の先生方におかれましては、発熱外来における診療やワクチン接種、あるいは通常医療の分担など多岐にわたる取り組みをいただくとともに、物心両面で筆舌に尽くしがたいご負担をおかけしてきたものと拝察いたします。

こうした医療従事者の献身により、わが国の新型コロナウイルス感染症による死亡率は諸外国と比べて極めて低く抑えられてきました。この事実は、世界に誇るべきものであると思います。

昨年はこれまでで最大規模となる「第七波」を経験しましたが、新たな変異株の出現、季節性インフルエンザとの同時期流行が予想されるなど、今後の動向はなお予断を許しません。

そのような中であっても、全国の会員の先生方が医療の現場で培われたご知見をもってすれば、必ずやこの感染症を克服して穏やかな日常を取り戻し、明るい未来へと繋げていくことができるものと確信いたします。

新型コロナウイルス感染症に限らず、わが国の医療提供体制を支えさらに前へ進めていく原動力は、全国津々浦々で日々、患者さんと向き合っておられる会員の先生方お一人お一人の経験に裏打ちされた情報やご意見、ご提言の数々に他なりま

せん。そして、このような経験知の総和が、学術専門団体である日本医師会のさまざまな施策や政策提言を形作っていくものと考えます。

日本医師会は昨年11月に「地域における面としてのかかりつけ医機能～かかりつけ医機能が発揮される制度整備に向けて～（第1報告）」を公表しました。地域に根差して診療されている先生方には、自院での診療以外に、平日夜間・休日輪番業務などの「地域の時間外・救急対応」や、学校医・産業医活動などの「地域保健・公衆衛生活動」等を連携して行い、地域住民の健康を守るため、二次医療圏や市区町村等それぞれの地域を面として支えていただいています。「地域における面としてのかかりつけ医機能」は、医療機関間の連携とネットワークにより、さらに強く発揮され、そこから得られる膨大な知見は、わが国の医療提供体制を充実・発展させるうえでの貴重な財産となります。

日本医師会はこの活動に深く感謝申し上げるとともに、引き続き全力で支援して参ります。併せて、国民の皆さんに対しても、地域医療が地域医師会及び会員の先生方の多大なるご尽力のもとに成り立っていることを広く知っていただくよう努めて参ります。

このような「面としてのかかりつけ医機能」を一段と高めるためには、医師会の組織強化が不可欠となります。その一環として、日本医師会では令和5年度より、現在臨床研修医に適用している会費減免の期間を医学部卒業後5年まで延長することといたしました。

この取り組みを通じて、より多くの先生方が医師会活動に参画しその重要性を体感いただくと

もに、わが国の医療を支える担い手として、共に歩みを進めていただきたいと考えております。また、組織強化の取り組みは、三層すべての医師会が足並みを揃えることによって実効性が高まるものですので、地域医師会の先生方におかれましては、格段のご理解とお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

昨年 6 月、私は日本医師会会長に就任する際の所信表明において、会務運営の四つの柱として、「地域から中央へ」「国民の信頼を得られる医師会へ」「医師の期待に応える医師会へ」「一致団結する強い医師会へ」をお示しいたしました。いずれも今後の日本医師会の活動における重要な目標となるものですが、それらの大前提として、まず「国民の健康と生命を守ること」を所信の冒頭に申し上げました。

これは医師会として、また一人の医師として、最も基本的な責務であると考えております。医師会のすべての活動は、国民の健康と生命を守るという目標に向けたものでなくてはなりません。医師会の組織強化の取り組みも、自らの利益擁護のためではなく、わが国の医療のあり方を誤りなき方向に導くための大局的視点に立って進めることが肝要です。

医療は、患者やその家族と医療提供者との相互の信頼関係を礎として成り立つものです。国民の健康と生命を守るためには、まず、診療の現場における患者との信頼関係が揺るぎないものでなくてはなりません。残念なことに昨年も、地域医療に情熱的に取り組まれていた医療従事者の方々が、診療現場において暴力の犠牲となる事件が起きました。医療従事者が安心して医療に打ち込

むことができるよう、医療現場の安全確保対策を進めることは喫緊の課題ですが、信頼関係に根差した医療を取り戻すことも、わが国の医療に課された重要なテーマであると考えます。

この他にも、医師の働き方改革に向けた取り組みや、次の感染症への対策、次期医療計画と介護保険事業計画等の策定、さらには診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の「トリプル改定」に向けた社会保障財源の確保など、医療界を取り巻く重要課題は山積しています。これらの課題の解決に向けては、関係当局をはじめ政府関係者に対して、医療現場の実情や課題を正確にお伝えし、科学的根拠に基づいて自由に議論できる関係性を築き維持していくことが不可欠です。今後も会員の先生方からいただいた数々のご提案を国の医療政策に反映できるよう精一杯努めて参ります。

医療の現場に生起する課題が複雑、多様化するに従い、日本医師会に期待される役割も多岐にわたって参りました。対応の迅速さやよりきめ細やかな柔軟さもこれまで以上に重要となっています。今年も一つ一つの課題に対して、日本医師会の総力を挙げ、兎のような素早さと勢いで取り組んで参る所存です。

新しい年が会員の先生お一人お一人にとって充実した幸多き年となりますことを祈念申し上げ、年頭に当たってのご挨拶といたします。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

年頭所感

山口県知事 村岡 嗣政



明けましておめでとうございます。

謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、皆様にとりまして、本年がより良い年となりますことを、心からお祈り申し上げます。

山口県医師会の会員の皆様には、保健医療行政をはじめ県政全般にわたり、格別の御理解、御協力をいただいておりますことに対し、心から感謝申し上げます。

とりわけ、新型コロナウイルス感染症対策におきましては、これまでも、医療関係者の皆様の御尽力により、検査・治療体制の構築をはじめ、ワクチン接種の推進や、自宅療養者へのサポートなど、県民の命と健康を守るための取組を進めることができ、幾度もの感染拡大の波を乗り越えることができました。改めて深く感謝を申し上げます。

さて、県では、本格的な少子高齢化社会を迎え、コロナ禍で生まれた新たな課題や、デジタル化をはじめとする急速な社会変革への対応など、県政を取り巻く環境が大きく変化する中、『安心で希望と活力に満ちた山口県』の実現を目指し、「安心・安全」「デジタル」「グリーン」「ヒューマン」の4つの視点を踏まえ、新たな県政運営の指針となる「やまぐち未来維新プラン」を策定したところです。

こうした中、県民誰もが生涯を通じて、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、限られた医療資源の中で、地域にふさわしいバランスの取れた医療提供体制を構築することが重要です。

このため、新たなプランでは、重点的に政策を進めるプロジェクトの一つである「安心を支える医療と介護の充実・強化プロジェクト」において、コロナ禍の経験を踏まえた新興・再興感染症の感染拡大に備えた体制の強化や、地域医療を支える医療人材の養成・確保、医療機関の連携推進など

に取り組んでいくこととしています。

また、「結婚・妊娠・出産、子育て応援プロジェクト」では、周産期医療体制の強化や、小児救急医療電話相談の運営、小児の病態に応じた医療提供体制の整備などにより、出産・子育てに関する医療面の不安軽減を図り、社会全体で子どもと子育て世帯を支える取組を推進してまいります。

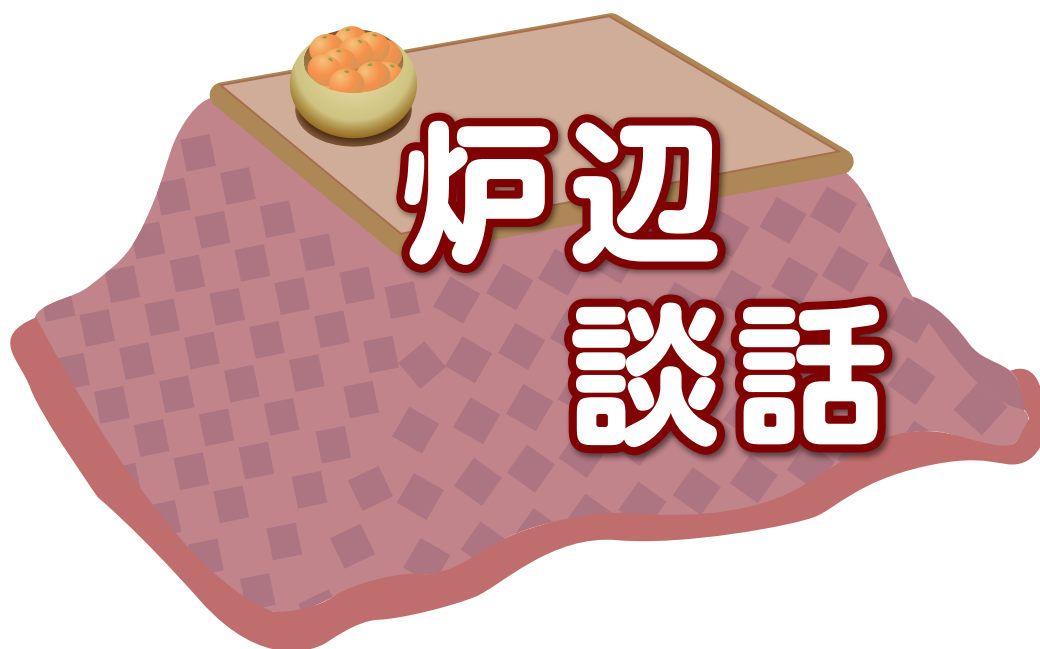
さらに、今年は、本県における総合的な保健医療提供体制の指針となる「第8次山口県保健医療計画」を策定していく重要な年となります。次期計画でも、引き続き、医療関係団体の皆様の御意見をお聞きしながら、県民のニーズに即した良質で適切な保健・医療を提供できる体制整備に向けて、策定を進めてまいります。

もとより、本県の新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、こうした保健医療施策を着実に進めていくためには、山口県医師会の皆様のお力添えが不可欠と考えていますので、御支援と御協力を賜りますよう、お願いいたします。

今年の干支は、「癸卯（みずのとう）」です。「癸（みずのと）」は、「揆（はかる）」と同じく、「物事の筋道を立ててはかる」という意味があり、「卯（う）」は兎の飛び跳ねる様子から「飛躍」、また「茅（かや）」と同じ意味を持ち、子・丑・寅と伸びてきた植物の芽や葉が繁茂する様子を表し、筋道を立てながら、繁栄につながる様子を思わせます。

私は、山口県医師会の皆様をはじめとする関係団体や市町、県民の皆様と連携・協働し、未来に向けた県づくりへ筋道を立てて積極果敢に挑戦し、次のステージへ飛躍する年にしたいと考えておりますので、引き続き、皆様の御支援、御協力を賜りますよう、重ねてお願いいたします。

結びに、山口県医師会の益々の御発展と、会員の皆様の御健勝、御多幸を祈念して私の年頭のあいさつとさせていただきます。



プロ

徳山 吉次 興茲

私の写真が第 33 回全国保険医写真展に特選 2 位に入った。私の写真が全国版の写真コンクールに特選に入るなんて望外の喜びである。嬉しくなって友人に漏らした。

すると彼は「娘が東京にいるから写真展に行かせる」と言ってくれた。

彼女が展示場に入ったとき、偶然プロの審査委員が講評している場面に出くわした。彼女はすぐに動画を撮った。

しかし、私の写真の講評を聞いた彼女はちょっと戸惑って『これを吉次さんに見せていいかどうかお父さん判断して』とコメント付きで講評動画を送ってくれた。もちろん友人はすぐに見せてくれた。

『綺麗な写真で技術もしっかりしている。しかし今はカメラが良いから誰にでも撮れる』

簡単に言うと結論はこうなる。

ちょっと複雑な気持ちになった。単純には喜べないぞ。

『昔のカメラはフィルムで感度が低いが、今はデジタルで感度を上げて暗いところでも簡単に写る。(フィルムの感度は 100 から 400 だが) 多分この写真は数千とか 1～2 万とかの感度で、シャッターは数秒だと思う。桜の枝先が動いていない。昔は何時間もかけて写したもんです。そうすると星は流れて線状になり、枝は動いてふわっとした感じに写る。こんな風にきりっとした写真は撮れない。今までこういった写真はあまり応募されなかった。綺麗なだけで、上位の写真のような人間関係の深さ、人間愛がない』

確かに桜に人間愛はない。

募集要項には書いてはないが、調べてみるとプロの審査委員は新聞記者を経て写真家となった社

会派である。保団連だから審査委員の気持ちでは人間や動物などとの愛の触れ合いがメインテーマなのかもしれない。場違いなところに応募したのか。

『天の川と満天の星空の下に満開の桜。宇宙と空と地上が一体化して、春風に巻き上げられた桜の花びらが天に舞いあがって星屑になっているような印象を受けた。そういう意味では非常にいい作品です。ただ挑戦してみただけであれば誰にでも撮れます』

さすがに写真の内容は作者以上に深く読み込んでプロの洞察力・感性のすごさに感銘を受けた。

だが、何回も簡単に撮れるといわれてしまった。別にながかりはしない、見当違いの講評だから。意外に思ったのは写真のプロといっても自分の専門分野だけのことで、ほかの分野の写真は素人よりも知らないのだ。

『iso 感度を数千とか 1～2 万とかに上げている』との講評だが、実際は iso1600、これを万と上げたら写真は全面に点状のノイズが一杯で、見るに堪えない。

『感度が高いから動きを数秒のシャッターで簡単に止めることができる』実際は 25～30 秒間。数秒では何も写らない。全く間違った技術的コメントである。

一度でも星景写真を撮ったことがあれば知っていることだが、何時間かけてその場所に行っても風が吹いたり雲があつたりと天候が悪くては撮れないし、露出間違いや真っ暗でピントが合わせられなくてピンボケになり、そばを人が歩くと振動でブレしまう、等は常識である。何十枚も没になる。機械は良くなっても、それを使いこなすのは

人間だから。新しい機械にもそれなりの難しさがある。何事も傍で思うように簡単にはいかない。

ここではっとした。自分はどうか、形成外科の専門医ではあるが、最新の専門的な技術は身に着けていないし、ましてや他科の分野の知識たるや素人以下ではないだろうか。他科のことはその疾患で悩んでいる患者さんの方が知識は深いだろう。他山の石である。

『患者さんは素人である』、なんて気を抜くと、とんでもないしっぺ返しを食うことになる。専門分野でも分からないことは分からないと誤魔化さないで言える時、人間的には成長したかな、と思う。

今回の件で嬉しかったおまけが一つ。

彼が子供に『友人の写真展を見に行ってくれないか』とラインしたら、返信が『特選や、スゴイ、明日行ってくる。お父さんのお役に立てるなら、喜んで』

なんともうらやましい彼の親子関係ではないか。



写真 「醍醐桜」

あなたの地元はどこですか？

柳井 織田 哲至

コロナ禍で人の繋がりが希薄になり、さらに70歳を過ぎると「あなたの地元はどこですか？」と聞かれることはありません。もし、聞かれたらどのように考えて答えるでしょうか。地元の考えは、それぞれ、その時に応じて異なるかもしれませんが。大学以外、小学校、中学校、高校まで同じ所で生活し、働く所も同じである人は迷いが無いでしょう。また、お寺さんのように何代にもわたって同じ所で生活をされている方は、直ぐに答えられるでしょう。長い期間、同じ土地に住んでいるうちに、思い出や友人も増え故郷であるという感覚も自然に抱けます。私のような転勤族は、答えに困ります。

政治家は、選挙の時、住んでいないのに地元に戻ると言います。例えば、亡くなられた安倍元首相も出生地、学校も生活の場も東京出身でありながら、先祖が長州藩で、本籍地が長門市のため山口が地元になります。先祖＝地元あるいは本籍地＝地元と考えても違和感は湧きません。明治政府が戸籍制度を導入し、すべての国民に本籍地を定めることを義務付けました。長州藩の戸籍法を参考にしています。住所と本籍地があるのは、世界中で日本だけです。初めは家単位で、昭和23年に夫婦単位になり、人々と土地の結びつきが長く保たれるようになりました。

皆さん、自分の先祖を調べたことがあるでしょうか？ 有名人であれば、NHKの「ファミリーヒストリー」で調べてもらえます。我々一般人は、戸籍を調べると分かるはずですが、戸籍の保存期限は150年と言われ、明治初期の戸籍は一日ごとに破棄されているそうです。新川帆立さんの小説『先祖探偵』にも書かれていますが、現在、取得できる戸籍の一番古いのは、1886年（明治19年）で、7～8代前まで分かります。

お寺（菩提寺）の過去帳があれば、1600年より前の記録は少ないですが、江戸時代までは遡れます。一代遡ると2人の両親、二代遡ると祖父母4人、十代遡ると1,024人、二十代遡ると先祖の数が100万人を超えます。同じルーツ同士の結婚、出産が昔は多いので、もっと少ないとは思いますが、1500年頃の日本の人口が700万人とすると7人に1人が名家の先祖を持っていることになります。経済力、武力があるほど子孫を残しやすいです。実際、自分のルーツをたどりた方は、古い戸籍を郵送で順次請求でき、身分証明書（免許書、パスポート）のコピー、返信用封筒、定額小為替（戸籍謄本なら450円）等が必要になります。役所に聞けば、より詳しく分かります。親族に会って聞くのもいいのですが、コロナ禍で葬儀も家族葬が当たり前になり、遠い親族に会うこともありません。どれくらい前の先祖を知りたいか人それぞれですが、何百年前の先祖より3～5代前くらい分かれば十分な感じがします。

私の場合、戸籍調査をしたことはありません。祖父、祖母共に愛媛県今治市の大島出身で、先祖が村上水軍の一族と父から聞いていました。織田信長と同じ家紋なのに織田を「オリタ」と呼ぶのか不思議に思っていました。2022年5月25日にNHKの「離島で発見！ラストファミリー 信長を破った末裔の島に住むオリタ一族の数奇な運命」で、「オリタ」の由来が放送されました。織田信長を破った村上水軍の村上家の一つは、秀吉の海賊禁止令で滅ぼされる可能性があるため村上から福羅へ改名し、関ヶ原の戦いに敗れた西軍の織田（オダ）はオリタと呼び方を変えました。福羅とオリタは、佐島から鶴島（どちらも現在の今治市、図）へ逃げてきた者同士、一緒に仲良く入植し、お互いの家族が結婚しあって島に居住しま

した。鵜島の宇佐八幡大神宮の石柱に織田富雄の名前が残っています。周りの島々に結婚後移住し、大島にも住むようになったと思われます。村上水軍は真言宗の信徒で、私の家も真言宗で御室派です。大島の真言宗のお寺は 4 つすべて御室派で、伯方島（大島の北）のお寺を含め島 5 つすべて御室派です。もし、議員に立候補したら地元は今治市の大島になるのでしょうか。私は一度も行ったことがありませんが、ここ出身の親族で大阪と博多に住んでいる織田（オリタ）家の人々との付き合いは今でも続いています。

全国に織田と書いて「オリタ」と呼ぶクリニックが、宮崎、山口 2、兵庫 2、大阪、東京と 7 つ存在し、考え方が似ているのか、そのうち 6 つは水曜日午後が休診でした。今治市周辺の島々が先祖かもしれません。大叔父が医師であったと父から聞いています。

暁部隊所属で広島に住んでいた祖父が、柳井市に住むようになったのは、本土決戦のために準備された船舶工兵第 31 連隊の部隊長（陸軍中佐）として柳井で終戦を迎え、今治市の大島へ戻れなくなった為と思われます。祖父の時から本籍地が柳井になりました。なお、津和野生まれで画家の安野光雅さんが、昭和 20 年 4 月応召され柳井の暁部隊にいたことが、「少年時代」（本人著）に書かれていました。柳井医療センターにこの部隊の慰霊碑：雄心の碑（おごころのひ）があり、慰霊祭が以前は毎年 4 月に行われ、岸 信夫議員夫妻が出席されていたのを二度お見掛け致しました。関連する人がいなくなったため現在行われていません。関ヶ原の戦いと第二次世界大戦が地元を変えました。

今では、やはり一番長く住んでいる柳井市を地元と答えます。出生地は変わりませんが、似た表現で出身地があります。この定義も難しく、大人の庇護を受けて育った未成年時代の土地、生まれてから 15 歳まで最も長く過ごした場所、あるいは高校卒業時の居住地とかさまざまです。転居を繰り返した場合、最も印象深かった土地とか思いのある土地を出身地と呼ぶ人もいます。地元あるいは故郷に近い考えになります。



図（森本 繁 著「村上水軍のすべて」より一部改変）

私の出生地は呉市天応町で、幼稚園まで 6 年間過ごしました。両親は既に亡くなっていますが、父がカメラで撮り、自宅で現像した母と一緒にの写真があります（写真）。ここは母の実家で、戦前はセーラー万年筆に工場地を売るほどの大地主でしたが、戦後は農地改革に伴い、土地をすべて失いました。父の転勤の為、舞鶴市と西郷町と二つの小学校に行き、中学と高校時代は門司で、出身地は門司になります。その後、柳井市以外で一番長く住んでいたのは、宇部市の 7 年間です。30 代であれば、地元は宇部市と答えていたかもしれません。ただ、呉市天応町は、いつ行っても愛着を感じ、懐かしさがあり、故郷と言う言葉が自然に湧き上がります。室生犀星の「ふるさと は 遠きにありて 思ふもの・・・」を考えると、ふるすとは、実際に帰る所ではなく、異郷にて想い出す所だと思います。コロナが収束し離島も含め気軽に旅をしたいものです。



写真 私と母

俳句ギャラリー

徳医句会（徳山医師会）

パイヤの鉢部屋に入れ今朝の冬
紅淡き母の忌明けの返り花

藤村友雪

運動会騎馬合戦に俄か雨
槇の葉の露に朝日の差しはじむ

村田周陽

其恕乎

山口大学 しまふくろう

子貢問曰 有一言而可以終身行之者乎

子曰 其恕乎 己所不欲 勿施於人也

(子貢問うて曰く、一言にして以て終身これを行すべき者ありや。

子の曰く、其れ恕か。己れの欲せざる所、人に施すこと勿かれ。)

～論語 卷第八 二四～

2022 年 2 月 24 日 米国バイデン大統領が繰り返し予告していた通りに～それは不気味なほど正確だった～、ロシアのプーチン大統領はウクライナに侵攻（侵略）した。「ああ。戦争ってこのように始まるのだ」、とニュースを見ながら不思議な感覚に襲われた。それと同時に、「敗者」に対する対応は極めて重要だということを、今回のウクライナ戦争で再び思い知らされた。

ぼくたちの視点では、彼の判断は正気の沙汰ではない。しかし、『Newsweek』誌の記事によると、彼のこの 20 年の行動には一貫性があり、自らの考え方は明確に表明し続けており、本人の世界観の枠内では至って合理的な行動を取っているらしい。極めて正気なのだ。



(イラスト：司馬さやか)

彼はこう考えているらしい……。西側諸国、とりわけ米国は宿敵であり、米国はロシアの版図を削ろうとしている。ロシアには近隣諸国に覇権を打ち立てる“権利”があるが、ウクライナは次第にロシアにとっての緩衝地帯および属国という“当然の地位”から脱しようと画策している。このまま手をこまねていれば、米国と NATO は自分とロシア国家を破滅に追い込むだろう……。彼にとって、ウクライナ侵攻は極めて理にかなった行動なのだ。「ほかに選択肢はなかった」、と彼は言っている。

この辺りが、ぼくにはよくわからない。国を家に例えて考えてみよう。自分の家は昔から地域を取り仕切る権利があり、隣の家は自分に隷属する家で、勝手に旅行したり、だれかと仲良くなったりは許されない。こんな勝手なことをするのは自分の家への侮辱で、乗り込んで精魂を叩き直すしかない、というのと同じである。これは正気ではない。狂気である。ウクライナとロシアは「兄弟国」と言われてきた。実際、親の片方はウクライナ系で他方はロシア系というのも珍しいことではないらしい（先日亡くなったゴルバチョフ氏もそうである）。ここにもヒトの真実の一つが現れている。ヒトは身近な存在に対し、より激しい憎悪を抱く。

ロシアは現在、発展途上国並みの経済力と産業力を有する中規模国家で、製造業生産はドイツの半分程度でしかない。しかも、寒いためウォッカをあおるせいか、男性平均寿命も 60 代である。とても先進国とは呼べない。このような国家が何ゆえ大国ぶるのだ、とぼくなんかは思うのだが、プーチンは思わない。

何年か前、当時の安倍首相の招きでプーチン大統領が長門・湯本温泉を訪れたことがあった。その時彼に供されたいらしい高価な日本酒を、ミーハー気分でもくもその山荘ホテルで味わった。安倍元首相が慎重に念入りに彼との個人的関係を築き、日露関係を改善させようと心砕いていた味がした思いだったのだが、今回の件で一瞬にしてその思いは瓦解した。岸田首相のウクライナ侵攻後の一連の発言を聞いていると、政府は日本的な甘い期待を完全に捨て去ったようだ。

「ロシア」とは、「ロシア人」とは何か？プーチン政権がみせるウクライナの民間人やロシアの将兵に対して、これっぽっちの哀悼の意もみせないこの人間軽視のメンタリティーは、一体どこからくるのか？その謎を解くには、1000年を超えるロシアの歴史を紐解く必要がある、と『Newsweek』のspecial reportで河東哲夫元ロシア公使は述べている。詳しくは読んでもらうしかないのだが、要はその歩んできた「苦難な歴史」が集権主義を再生産し、自由と民主主義そして市場経済をベースとする近代文明に加わる機会を失ったから、としている。司馬遼太郎も言っている。「君子ハ為サザルアリ」、国家がなすべきでないことは、他人の領地を合併していたずらに勢力の大を誇ろうとすることだ、と。為せばその巨大な領域に見合うだけの大規模な軍隊を持たねばならず、持てば兵員を耐えず訓練し、おびただしい兵器を間断なくモデル・チェンジしてゆかねばならない。やがては過剰な軍備と軍人、あるいは軍事意識のために自家中毒をおこして、自国そのものが変質してしまう、のだと。かつてのわが国が陥った罠である。ロシアも同じなのだろう。広大な領土と、それをたえず防衛せねばならぬという緊張が内部の変質を生むのだろう。

著名なロシア文学者亀山郁夫は朝日新聞への寄稿文で、戦争の発端は、独裁者プーチンの脳裏にこびりついた恐怖と復讐心、そして過てる宗教的使命感である、と断言した。そして、率直に自分の胸の内をさらせば、ロシアを憎み、アメリカを憎んだ、としている。侵攻当初は1877年の露土

戦争当時、ドストエフスキーの好戦性とは対照的な非戦論を唱えた作家レフ・トルストイの、「暴力によって悪に抗せず」の言葉に一縷の望みを託していたようだが、状況が悪化するにつれ、非戦論を語る余地はなくなった、としている。そして、独裁者から使い捨てにされ、良識ある市民からも見放された兵士たちを地獄から救い出すべきを私たちは何一つ手にしていない無力感を嘆き、できることはただ死への想像力を研ぎ澄まし、勇気と誠意を持って「真実」と怒りの言葉を発し続けることだけである、と結んでいる。

独裁者プーチンも人の親であり、おそらく良心の裁きを受けているだろう、と僕も想像するのだが、自らを歴史上の人物に置き換えて、あるいは歴史の外に身を置いて、裁きを逃れているのだろうか。他方、虚偽で固められた権力の俗悪さに辟易した良識あるロシア市民の多くは、現実逃避に安住しているのだろうか。なぜ声をあげないのか？と思うのは僕たちだけで、これを書いている時点ではプーチンは75%以上の国民の支持を得ている、との事である。

このように全く価値観の異なる人々とうまくコミュニケーションを取り、どのようにして一致点を見つけ、平和的に建設的な未来へ進むにはどうしたらいいのだろうか？難問である。本当に難問である。総力をあげて、解決策を研究する必要がある。



(イラスト：司馬さやか)

ロシアはおそらくこの戦いに勝つことはないだろう。そして戦後、さらに先進諸国との技術的・文化的な格差は広がるだろう。そして、さらに深刻なのは、国としての品格・敬意までもかなり失っているだろう。それでも、ただ一つだけ言えることは、このようなロシアに対してでも、許し受け入れ、国際社会の中で誇りを持って生きていけるような場所を世界は確保しなければならない、ということである。国としての無念や怨念、復讐心を決して持たしてはならない。かつてわが国もこのようにしてもらって、立ち直ったではないか。

(2022 年 9 月 30 日記す)

参考資料：

1. 「論語」 岩波文庫 第 50 刷
1993 年 11 月 5 日
2. 「プーチンの心理」 グレン・カール
Newsweek 2022 年 3 月 22 日号
3. 「ロシアよ、兄弟を殺すとは」 亀山郁夫
朝日新聞 2022 年 5 月 3 日版
4. 「ロシアはなぜ“苦難のロシア”なのか」
河東哲夫 Newsweek 2022 年 5 月 24 日号
5. 「ロシアについて 北方の原形」 司馬遼太郎
文藝春秋 昭和 61 年 7 月 20 日
6. 「THINK AGAIN 発想を変える、思い込みを手放す」 Adam Grant
三笠書房 2022 年 4 月 30 日 (第 1 版)



認知症予防 補聴器の導入

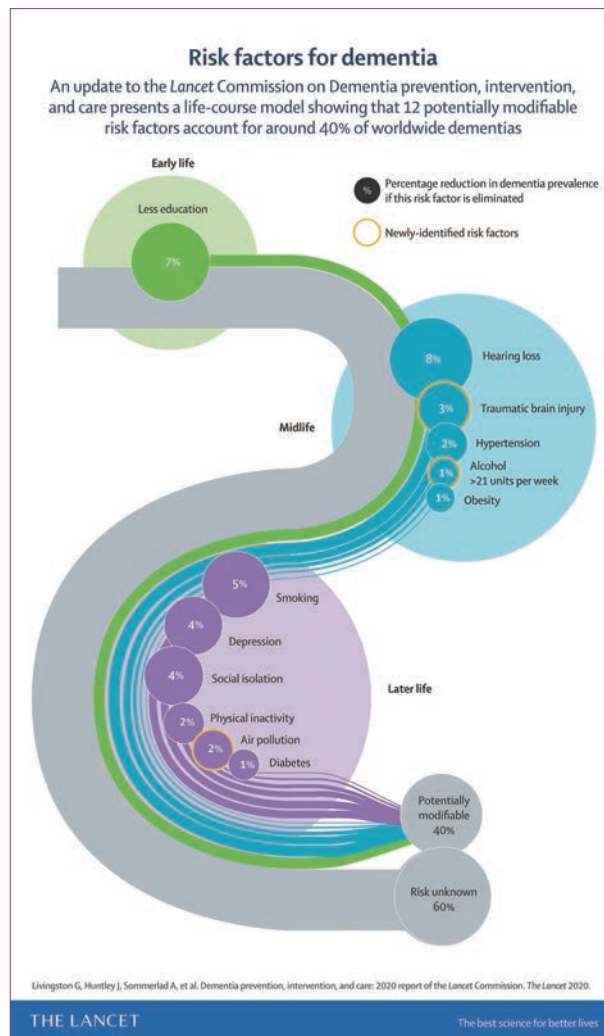
徳山 中村 和行

令和 2 年 8 月 8 日刊行の国際医学誌『ランセツト』には、“Dementia prevention, intervention, and care: 2020 report of the Lancet Commission”と題した報告があります。認知症の予防、介入、ケアについて、2017 年の報告から、さらに踏み込んだ詳細な調査結果を報告しています。中でも、「認知症の 40%は予防可能な 12 の要因によっておこると考えられ、その中で最大の危険因子は難聴である」と結論しています。

Risk factors for dementia (図) には、認知症を発症する危険因子と危険度を経時的に示してあります。認知症の危険因子の 60% はよくわかっていませんが、残りの 40% をつぶさに見てゆくと予防可能なことがわかってきました。2017 年の報告に新たに予防可能な危険因子が 3 つ加えられました。それは、過剰飲酒、頭部傷害、大気汚染です。因みに、2017 年の報告では予防可能な危険因子は、教育の低さ、高血圧症、難聴、喫煙、肥満、うつ病、糖尿病、運動不足、社会的接触の少なさの 9 つでした。この 12 の危険因子を取り除けば、認知症の 40% を予防できるとしています。その認知症発症の危険性を軽減する活動を生涯にわたって続けることですが、早すぎても遅すぎても良くないと述べています。一人一人に合わせた健康維持計画を立てる必要があり、社会活動、認知活動、運動に併せて血管の健康を守る活動が大切です。

その活動とは、

1. 40 歳代の中高年期に収縮期血圧を 130 mmHg 以下に維持する。事実、高血圧の治療は認知症の予防に唯一効果のある方法と報告されています。



図

2. 難聴については、補聴器を使う。聴覚を過剰な雑音から守るために必要であるとしています。

3. 大気汚染や受動喫煙を避ける。

4. 頭部に怪我をしないようにする。

5. 飲酒量を週 21 単位までとする（英国政府によるガイドラインでは、「毎日飲んでも“安全”な酒の量」は、女性の基準として 1 日 3 単位（ワイン 1 杯半）と設定し、1 週間で計 21 単位を超えないようにする）。

6. 喫煙や受動喫煙を避ける。高齢になると認知症の危険因子となります。

7. 全ての子供の教育を義務化する。

8. 肥満を防止する。その後の糖尿病の発症予防につながります。

9. 睡眠の質を維持する。

10. 黒人やアジア人、少数民族や弱者に対する差別をなくす。彼らの健康のみならず社会的な活動を維持するために重要です。

11. 認知症は、経済的な貧困により増加する傾向があります。特に low-income and middle income countries（LMIC）では high-income countries に比べて国民の高齢化による認知症発症の危険度が上がります。私見ですが、LMIC での新型コロナウイルスのパンデミックや地域紛争による社会不安が生み出す経済状態の悪化は、将来にわたって LMIC の認知症発症リスクを拡大すると考えられます。

12. 認知症を伴う患者の多くは、他の病気で患っていることも多いため、入院治療中の認知症の進行を抑える。

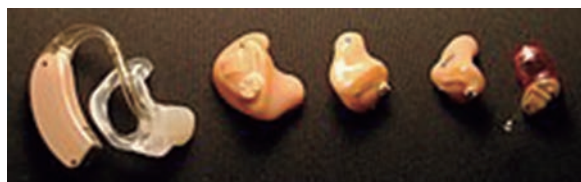
13. 認知症患者の神経学的心理症状を管理する。

14. 認知症患者を抱える家族への持続的な介入は、患者のみならず家族の心配やうつ状態を改善するために極めて重要です。

中年期（Midlife）から認知症を予防できる最大の因子は、難聴（Hearing Loss）だということですが、最近は難聴の対策として補聴器が一般化しています。17 世紀には耳に取り付ける集音器のような原始的な補聴器がすでに製造されていました。電気的な信号増幅を行う現代的な補聴器は、19 世紀に発明された電話機の派生物です。電気式補聴器は 1898 年に最初に作られ、20 世紀を通して性能向上と小型化が進められました。20 世紀末には高度な信号処理機能を備えたデジタル補聴器が一般に購入できるようになりました。

20 世紀の前半には、補聴器産業は電気機器が小型化されていく流れの最先端にあり、真空管やトランジスタ、IC のような新技術が登場するたびにいち早く導入されましたが、補聴器に頼るのは恥ずかしいことだという社会通念があったことから、小型化は携帯性の面だけでなく使用を隠せる点で需要が高かったのです。デザイン的にも携帯用補聴器は箱型から耳かけ型、さらに挿耳型と、より目立たない方向へ進化しました。

（本稿は、Wikipedia の「補聴器の歴史」を参照しています）



伝統的なデザインで作られた 21 世紀初頭の補聴器

絵画ギャラリー

山口市 湧田 幸雄



「桜の瑠璃光寺五重の塔」（2006 年）

これは 2019 年に作成した「作品集心象」からの一枚です。春の瑠璃光寺五重塔を訪れる人は多いが桜の木はそれほど多くない。もう少し花が欲しいと思って制作しました。

昨年夏頃から「画像作成 AI」による CG 画像の話題がマスコミに取り上げられていますが、新たなクリエイティブな手法を示す反面、他人の写真や絵画を使用したり、フェイク画像につながる危険な作品等様々な問題が指摘されています。「心象」は、私自身が撮影した時代や場所（時間や空間）の異なる写真をパーツとして描写の加工や画像の合成を行った手作りの作品です。楽しんでいただければ幸いです。



「ケンジントン公園の朝」(1971 年)

これは 2019 年に作成した「作品集心象」からの一枚です。ロンドン、朝霧の残る公園を散歩する。遠くから小鳥のさえずりが聞こえる。目覚める前のチューリップはまだカップを閉じたまま。その雰囲気がいっまでも感じられる様に制作しました。



「ばら」(2022 年)

これは 2022 年に作成した「心象」からの一枚です。華やかで派手な印象の薔薇ですが、日本の庭に咲く落ち着いたばらの雰囲気をも日本画の画風で表現してみました。

大愚良寛

徳 山 篠原 淳一

良寛様といえば、夕暮れ過ぎて暗くなっても子供たちと鞠をついて遊んだという有名なエピソードがあります。この話はどうも事実だったようで、生まれ故郷越後の良寛記念館に手鞠の実物がいまでも大切に保存されています。

以前から「晩年の良寛様は認知症に罹患していたのでは」といった説が巷間で取りざたされてきました。

鞠つきのエピソードなどは一見すると認知症によくある恍惚の人を彷彿とさせます。

晩年の良寛様は徐々に物忘れがひどくなってゆき、医師の診察のあと自分の着物をすべて忘れて帰ったなどの有名なエピソードがいくつか残っています。

また短歌にも物忘れの場面が散見されますが実際の良寛様はどういった人物だったのでしょうか。

生前の良寛様は名利に淡泊な人物だったようで自分の和歌や漢詩をほとんど残していません。

そのかわりに親しい友人が彼の言行録を「良寛禅師奇話」として残しています。同郷の相馬御風がそれをもとに「大愚良寛」としてまとめたものが現在の良寛像の原型となっています。

良寛様は宝暦 8 年（1758 年）に越後出雲崎で名主の長男として生まれました。またお互いの交流があったかは不明ですが、俳人の小林一茶は 5 歳年下で隣町の人です。

若いころは昼行燈というあだ名で一見ぼんやりした人物だったようですが、実際は純な優しい人柄だったようです。名主見習いとして奉公しましたが、自分は名主には向いてないことにあるとき

気づきました。

これは生来の世渡り下手なためでしょう。

結局、出家という道を選んでいきます。仏教には「捨ててこそ」という言葉があります。これは「現世の名利を捨てて仏の子となる」といった内容ですが、どうもそういった心境だったのではと推察されます。

備中国玉島の円通寺の国仙和尚の下で得度し「大愚良寛」という僧名をもらっています。国仙和尚は良寛様の人柄の正直さ誠実さを最初から見抜いていたようです。大愚とは、一見愚かしい風貌だが実際は聡明で篤実であるということです。親鸞上人の「愚禿親鸞」と相通じるものです。

良寛様は 13 年のあいだ備前国円通寺で厳しい座禅修行をしています。以前「清貧のすすめ」という考えが流行しましたが、実はこれこそが終生良寛様を貫いた考えだったのです。乞食と紙一重の生活でまさに「捨ててこそ」を地で行ったものですが、実際は自然や酒と詩歌を楽しんだりの生活だったようです。

その後は 5 年間全国行脚しこの間多くの漢詩や万葉風の短歌を残しています。この傾向は晩年まで続くことになりますが、良寛様は自分の境涯を晩年まで詩歌で表現し続けました。

全国行脚の後は郷里の越後に帰郷して五合庵という小さな寺で生活することになります。

ここでも相変わらず質素な生活だったようですが、単なる世捨て人でなく多くの友人たちと頻回に交流をしています。

また、当時の越後の殿様から長岡の寺へどうかと招かれていますが、丁重に辞退して「たくほど

は風がもてくる落ち葉かな」と詠んでいます。

「自分が生きてためには雨露をしのげる庵だけで十分です」という意味です。

臨済禅の公案に「無一物中無尽蔵」というのがありますが、これこそが名利を捨てきった末の悟りの境地です。おおらかでゆったりした境地です。

実際の良寛様は一生を通じて民衆に説法などはせず淡々と生活していたようです。晩年の漢詩に「災難に逢う時期には災難に逢うが良く候。死ぬ時節には死ぬが良く候。これは災難をのがるる妙法にて候。かしこ」という有名な言葉が残っています。

「どういう困難な時期も逃げずにあるがままに生きなさい」といった内容でしょうか。

74 歳で死去する際に辞世として「形見とて何か残さん春は花山ほととぎす秋は紅葉ば」と残しました。

「わたしが死んだあとの形見に何か残したいが・・・。

残すとしたら春は花、夏は山のほととぎす、秋は紅葉など美しい自然を後に残します。私に会いたかったらこれらを訪ねなさい」という意味かと思えます。

一生を通じて清貧に生き切り、自分の心境をおおくの短歌や漢詩に託した良寛様でした。

また、子供好きの良寛様は晩年は毎日暗くなるまで子供たちと手鞠について遊んでいました。

金銭欲など色々の欲が渦巻く現代社会ですが、良寛様の無心で慈悲に満ちた考えは私たちが生きる上でひとつの座標軸のような気にもなります。

どうも同郷の小林一茶を彷彿とさせる妙に郷愁を感じさせるような人物です。

参考文献

良寛詩歌集 中野東禅著

良寛 旅と人生 松本市壽著 など



コロナ禍と 3 年ぶりのベトナム

下 松 岩 本 功

ベトナムでの活動を主とする我が NPO 法人国際ボランティア IMAYA は 2019 年 8 月にベトナム中部にあるフエ省とクアンナム省での予定活動を無事に終えてハノイに移動しました。

ハノイではボランティア組織の設立から 25 年間という長年に亘って協力して頂いたベトナムの医師や看護師をはじめとする方々への感謝を込めた夕食会を宿泊するホテルで開催しました。

感謝会に参加した人たちの中には私の勤務地である下松市に来られた方も多く、ベトナムとの繋がりが深く、時を忘れて思い出話などに花が咲きました。2020 年の再会を約束して楽しくて和やかな夕食会は終わりました。

2019 年が無事に暮れようとする年末には小学生の孫は父親に連れられて上海ディズニーランドでの希望の新年を祝う年越しカウントダウンに心を躍らせて出掛けて行きました。

その頃から中国武漢で発生した感染症が世界中の人々の日常生活を一変させる新型コロナウイルス感染症パンデミックのカウントダウンも始まっていたとは知る由もありませんでした。

過去には世界の歴史を変えたと言われるペストや天然痘などの細菌やウイルスによる感染症がありました。特に中世に「黒死病」と恐れられたペストのパンデミックでは人類はなす術もなく、「死」があらゆる階級の人々の手を取り、墓場まで導くという意味の寓話的な表現として「死の舞踏」という木版画が当時のヨーロッパ中に広がりました。同じように、新型コロナ感染症もまたたく間に世界中に広がり、2000 年 9 月に累計 100 万人、2022 年 11 月には累計 660 万人の死者数が報道されました。12 年前にスイ

ス・ルッエルンで見たこの「死の舞踏」の板絵は過去のものではなく、目の前で起きている現実ではないかと錯覚しました。

2003 年に SARS がベトナムで流行し始めた時には偶然にもハノイに滞在しており、知人の医師たちとの話題は「原因はウイルスか？細菌か？とか対応をどうするの？」などでした。SARS に感染した患者さんが入院した病院を職員ともども丸ごと隔離するというロックダウンには驚きましたが、その後のゾーニングや陰圧室代わりに病室の窓を開放する事などで流行は抑え込められたようです。

これは後に WHO から「ベトナム方式」と高く評価され、この経験が今回の新型コロナウイルス感染症に対しても活かされ、ワクチン接種を優先しながらコロナ禍に取り組んで来たようで、ベトナム政府（保健省）は本年 3 月には新型コロナウイルス感染症流行での 10 万人当たりの 1 週間の新規感染者数、酸素療法者数、死者数などの 8 つの指標の分析とワクチン接種が進んで社会・経済的な発展にも成果が見られるとのことから新型コロナウイルス流行を「パンデミック」から



写真 1 「死の舞踏」板絵

「エンデミック」として通常感染症に扱う事を政府広報で伝えました。

この情報により待ちに待ったベトナム入国が期待され、更にコロナウイルス感染の陰性証明も不要となり、福岡空港からのベトナム航空便も 3 月 27 日から限定的ながら再開されました。

しかし、「コロナ鎖国」と言われる日本からの渡航には色々なハードルがあり、容易ではありませんでしたが、コロナ対策を充分行いました。そして 9 月 16 日には仲間とともに 3 年ぶりに福岡空港から機上の人となりました。

ホーチミンでのトランジットでフエ行便を待つ間の喧騒に、忘れかけていた「ベトナムパワー」が思い起こされて 3 年間の日本での長い眠りから目覚めました。

その後に訪問したフエやドンホイの活動地では多少の不便を感じるも、3 年ぶりの日常が人々の笑顔とともに至る所にあふれていました。

渡航できない間にフエの知人と交わしたメールにあった「ベトナム中部の経済状態は落ち込み、特に観光業を主とするフエなどの観光地は海外からの観光客やボランティアの姿もなく、大打撃を受けている」が信じがたい光景でした。

3 年ぶりの「ベトナムパワー」に元気づけられながら、フエではフエ医科薬科大学生へ 2008 年に医学生 1 名から始めた奨学金を 19 名(5 名欠席)の学生さんへ激励しながら手渡しました。卒業された奨学生の 20 名の方々がそれぞれの分野で社会に貢献されておられる事は嬉しい限りです。

続いて、フエの北 200km 以上あるクアンビン

省ドンホイへ移動しての障害者支援センターではベトナム製の特殊車いす 20 台(2003 年からの累計 421 台)を下肢の喪失や機能低下している方たちへ、通学用自転車 20 台(2016 年からの累計 70 台)を小中高の生徒たちに寄贈しました。今回も我々の活動のモットーである「顔の見える支援」により現地の人たちの笑顔に出会い、3 年間待ったベトナム訪問がとても有意義なものとなりました。

3 月中旬に国際観光を再開したベトナムですが、観光客数は 10 月までに 235 万人と目標の 500 万人に届きませんでした。これからのウィズコロナやアフターコロナでの国際交流が定着して以前の訪問数レベルに戻ることを願って止みません。

新年を迎えるにあたり新型コロナウイルス感染症の収束を願うとともに、これからも我々を悩ます再興・新興感染症が続くことは否めませんので、しっかりと対応できる自分であるように生涯学習に励めねばなりません。また今回の 3 年ぶりのベトナム活動で「顔の見える支援」の大切さを再認識し、日々の診療現場に於いても「顔の見える診療」が大切な事を忘れないようにします。

参考資料

1. 「死の舞踏」の解説 ブリタニカ国際大百科事典
2. 「COVID-19 Dashboard」
3. 「JETRO ビジネス短信」

ジョンス・ホプキンス大学

日本貿易振興機構(ジェトロ)



写真 2 フエ医科薬科大学生への奨学金



写真 3 ベトナム製車いす・自転車寄贈

愛情（相性、退場）物語

下関市 塩見 祐一

映画を観るのが唯一の趣味な僕にとって、近頃とみに洋画の邦題の付け方が気に食わない。原題をカタカナにただけなんだもの。対して昔のは興味があつた。次ぎの二作品もその例にもれない。

○愛情物語

シアター 1 『The Eddy Duchin Story』（邦題・愛情物語、1956 年）のリバイバル上映を観たのは多感な高校 3 の 17 才の時だ。描かれた内容を思い出しながら主人公が愛した対象者遍歴を臨床心理学上の“交流分析”で辿ってみる。

P：親（母）の愛 タイロン・パワー扮するピアニストのエディ・デューチンが『○○』（ドストエフスキーの長編小説）美と噂されたキム・ノヴァクの愛と財力ある“推し”でもってアメリカン・ドリームをつかむ。二人は結婚し、彼女は一粒種の出産直後に亡くなってしまう。

A：大人の愛 失意のどん底にあったデューチンは彼女の遺したピーターともママならないで、時間だけが過ぎていく。時は第二次大戦に突入し、彼も出征して戦地へと。帰国後、その間一人ぼっちで寂しかった息子がスゴク懐いた家庭教師のヴィクトリア・ショウに出会う。自然に彼女と大人の恋におちいり、デューチンは余命幾ばくもないにもかかわらず再婚する。

C：子供の愛 彼女の取り持ちで息子との仲も直り、親子でピアノの共演となる。そのラストシーンでデューチンがピアノを弾くソノ画面から急に彼が消えていく、この場面が僕は大好きだ。その時に流れたカーメン・キャヴァレロのショパン『ノクターン』も。

以上より、愛は一方的なものではなく“交流分析”で言う“相補交流”がなければ相思相愛にはならないのだ。

シアター 2 『Love Story』（邦題・ある愛の歌、1971 年）は主演がアリ・マッグロー＆ライアン・オニールでエリック・シーガル原作だ。ヒロインが「愛とは決して後悔しないこと」という言葉を恋人に伝えて白血病で亡くなるのが作品のテーマだ。

邦画界で“美人薄命”をそのまま地（字）で行（逝）ったのは本映画と同じ“白血病”の夏目雅子さんだ。近年ではハリウッド進出の渡辺 謙さんや女子水泳の池江璃花子選手みたいに見事カムバックされるスターもいるのに残念でたまらない。

昔々の下関市で休日診療所が始まってしばらくの頃。僕は勤務する下関 K 病院（当番は僅か内科 Dr.1 人、Ns.2 人体制）で二次救急の引き受け病院として待機していた。夜半に高熱患者さんの紹介あり。19 才の S 大男子学生で出身は東北の S 市だった。たかが発熱で？と思った。だけど依頼がベテランの故 森岡先生（元林兼病院長）故、もしかして重病？と外来で白血球数を顕微鏡で調べた。何度数えても 1,500 しかない。案の定、急性骨髄性白血病だった。お母さんが迎えに来られて、ファミリーの希望により実家近くの日赤病院に転院となった。退院前日に「髭が伸びちゃったネ」と言ったら、「病気が治るまで剃りません」と笑った。後日、向こうの主治医から「一度の寛解もなく亡くなられた」との返事が来た。

ロマンス映画を見終わってよく思うのは、彼らのひと時の恋愛事情がソレからも続くとしたら、その恋人同士の相性が余程ピッチに違いない、と。僕たち医師にとって患者さんとの相性があるように。さて、次ぎなるはソノ相性についてのアイロニカル自験例である。

○相性物語

症例 1 80 才代の女性、まだ彼女が定年前の現役で僕がソノ職場の嘱託医（今の産業医）をしていた頃からの患者さん。よって僕の実年齢や子どものこともしっかりご存知だ。先日言われたのは「先生の子供さん達はいつ下関へ帰ってらっしゃるのですか？」。答えて曰く「まだまだ修行の身やからね」。心中、医療がついにクラシックになったので、代替わりしたいのかな？と勘ぐってしまう。

症例 2 70 才代の男性、下関 K 病院・内科以来引き続いて診ている患者さん。「センセイも私と同じ年代やから何時倒れるかもしれん。その時じゃ遅いから、今のうちにどこへ変わったらイイのか教えてくれ」。そうか、頼りにならん年になってしまったか。しかし、医者としてのプライドもあるから負けられないよね。

症例 3 60 才代の女性、当診療所を開業した時分からの患者さん。始めはヤル気満々で午前中は西洋医学・午後は和漢医学としていたが、すぐにやっていけなくなり“何時でも何なりと”に変更した。それでも彼女は今に至るまで午後に漢方エキス剤診療受診される奇特な人だ。が、最近になって診察中に老いを見つけたのか「センセのお弟子さんでもおられたら、と何時も思っています」なんて。

ということで、わが身にもいよいよもって昨今よく聞く引退勧告をされる時期が来たナと感じる今日この頃であります。その Stage は次ぎの通り。

○退場物語

ステージ 1 45 才、下関市医師会報の編集委員氏におだてられ『僕の 2001 年医療と経済の旅』を投稿した。その論考中、医師供給曲線から“保険医定年制”が必要とされるとした。当該年令は書かなかったけれど、それは 65 才と考えていた。根拠は、時代が介護保険法制定・施行前夜であり、ベテラン医師の需要＝受け皿はありすぎると見たからだ。ごめんなさい、若気の至りでした。まさか、医師が介護業界の主体を外されるとは。

ステージ 2 65 才、無責任な持論の言い放しになる自縄自縛の上記年令になる。こうなりや

人生で一番楽しかるべき青春に貴重なお金と時間を投入した受験勉強に賭けてみよう。注ぎ込んだサンクコストを取り戻そう。そして不合格にならないテクニックを伝授する反面教師的学習塾を開こう。知り合いの建築士さんにテナントの間取りまで考えてもらった。しかしだ。主たる受講者想定である中学生の重要科目・英語に僕の泣き所があった。その昔に苦手な“時計の問題”等の解き方を教えてやった長女から「父さんのリスニング力は小学生並み！」と指摘され、即、断念した。

ステージ 3 70 才、医者の不養生！開業後初めて 12 日ほど仕事を休んだ。入院なんてしたことがなかった身にはショックだった。その際に詠める歌のように。

～「この俺がこんな病気になるなんて！健康オタクで生きてきたのに」～紀貫（汚）之

マイ主治医が回診中に出される^{けはい}気配も「無理をしない方が・・・」だったので、退院後に当院かかりつけ患者さんの他院への紹介状を書き始めた。手書きレセプト以来の筆圧過重で腱鞘炎となり、30 通書いたところで止めた。

ステージ 4 75 才、後期高齢者医療被保険者証をいただいた。その保険証につき仕事場にこのところしきりと文書や電話で“オンライン資格確認導入”案内が来る。大のメカ音痴の僕にとって「もう医療の第一線から身を引きなさい」と背中を押してくれている感じだ。他方、ワタクシメを少しでも“かかりつけ医”として見てくれる静かな患者さんの顔が浮かび、申しわけなさで一杯になる。正にシェークスピア『ハムレット』の名言“To be, or not to be, that is the question”と同じ心境なのだ。すなわち、「診療所を続ける、or、閉じる」、それが目下の僕の大問題なのである。

♫の一句です。「隠居して ひねもす映画を観たりカナ！ or ?」 ～ 不遜（ブソン）

俳句ギャラリー

ふしの句会（山口市医師会）

若水やきれいなまゝま掬びたり
初空に塔の五層の雄雄しきよ
雪兎たまゆらこそその命かな
杉山元治

葉を落とすヒポクラテスや冬構
みちのくの銀杏落葉の旅土産
血に曇る月蝕の月冬めける
末兼浩史

汁椀の蕪透きとほる朝餉かな
晴天の朝や真白き足袋を干す
献立を決めず園へと暮早し
佐々木映子

庭師等の談笑楽し冬日和
雲流る秋天のぞく大整枝
雲一つなき秋天を飛棧の行く
坂本強

俳句ギャラリー

ふしの句会（山口市医師会）

異国から半日遅れの初笑ひ

窓際が玩具の居場所小春かな

文机や姿勢崩さぬ水仙花

今村孝子

柔らかき笑顔を律す秋の霜

春風の笑顔の君の心意気

またいつか笑顔が地顔芝桜

淵上泰敬

煮崩れて湯気の細かき蕪汁

日溜まりで世間話の小春かな

コロコロとワクチン変わる秋の空

成重隆博

福岡国際マラソン選手権大会と共に 24 年間

萩 市 池本 和人

毎年の事ながら年末の楽しみは福岡国際マラソン選手権大会医務班に参加すること。2021 年 12 月 5 日の第 75 回大会を最後に、長い歴史の幕を閉じた。連続し医務班としての参加は 24 回で楽しみが終わった。

師走の福岡を駆け抜けてきた福岡国際マラソン選手権大会がラストランを迎えた。コロナ禍のなかでの大会の開催はひと味ちがい緊張感があった。本大会は 1947 年に「金栗賞朝日マラソン」として熊本で産声を上げ、1960 年代以後は福岡会場。世界のマラソン名選手を育て、日本選手の強化に寄与してきた。振り返れば 2 度の世界最高記録を達成。8 回の日本最高記録が樹立されるなど語り継がれる数多くの名勝負の歴史でもある。当時の世界記録保持者のハイレ・ゲブレセラシエの走りを第一医務車で見ながら、マラソンの一番楽しみは 35 キロあたりから誰が何時抜け出すかの駆け引き。第一医務車は汗が飛んできそうな場所での仕事、本当に多くの興奮を体験し数々の名勝負は今でも思い出し懐かしい私の財産であり、数え切れない貴重な体験でした。

萩市医師会から毎年、ボランティア参加者。私の経験が萩城下町マラソンへ発展しました。福岡国際マラソン選手権大会で活躍した名選手が萩でゲスト参加しました。

最近 は綿貫篤志現萩市医師会会長夫妻（6 回）。杉山裕子医師会職員は、10 回を超えての無償ボランティア参加。過去 24 年間には萩市医師会員を始め、山口県内の医療関係者には参加頂きました。この大会終了も仕方がないかと諦めておりました。全国各地で多くの市民が参加するマラソン大会に移行する傾向は時の流れである。

2022 年 3 月 19 日朝日新聞記事。驚いたことに日本陸上競技会連盟は昨年 12 月の大会で終了した福岡国際マラソン選手権大会を新体制で開催する事に決定したと報じた。スポンサー等、主催の一部には変更のみは仕方がない。年の瀬の博多の風物詩になりましたマラソンは年中行事を消したくはないと福岡県や関係者の動きが大きな波になりました。朝日新聞記事では日本陸上競技連盟と福岡陸上競技協会。大会実行委員会が主催する。令和 4 年 12 月 4 日の開催で名称は福岡国際マラソン選手権大会 2022 年（仮称）、昨年までと同じ平和台陸上競技場発着のコースで実行する。海外からの招待選手を含む男子エリート選手約 100 人の参加者を予定し世界選手権などの代表選考会を兼ねる見込み。従来大会は事情があり、一旦は幕を閉じることになったが、今後はスポンサーを探し助成金募集等、福岡県の底力を結晶する。之は実に素晴らしいこと。そうと決まれば従来の動きに変わりなく、私は参加出来るかと不安がつきまとう。互いに連絡を取りあって今年も萩市医師会から 4 人が参加出来る事を期待する毎日。馬齢を重ねての事である。引退も頭にはよぎりましたが、決まれば参加しようと決めて健康管理と体力保持。時間を見付けては、秋吉台のウォーキングと萩市菊が浜の運動は繰り返し準備万端、動かない事と心を決めて 1 ヶ月後が楽しみである。

2022 年 10 月 30 日 記（萩市陸上競技会顧問）



写真 1 最後に裏方が今後は使われない表彰台に上る



写真 2 第 75 回福岡国際マラソン大会の小冊子

2023年のスギ・ヒノキ花粉飛散の予測

【記：山口県医師会副会長／

沖中耳鼻咽喉科クリニック（花粉測定機関）院長 沖中 芳彦】

昨シーズン花粉飛散総数は、スギが平年値（直近10年間の平均値）3,070個/cm²に対し1,900個/cm²、ヒノキは平年値1,510個/cm²に対し2,070個/cm²で、スギは平年以下、ヒノキは平年以上の飛散となり、ヒノキがスギを上回るという結果でした（図1）。今シーズンを迎えての平年値は、スギが3,050個/cm²（図2）、ヒノキは1,685個/cm²となります。

今シーズンも、定点木の雄花の着花状態による、従来どおりの方法で予測しましたところ、スギ雄花は多く着いているため（図3、4）、4,000個/cm²程度の総数となりました（図5、6）。しかし、図5の○で囲んだ部分のように、このあたりの着

花率でも実測値は3,000個から6,000個以上と、年により大きな差が認められています。果たして、どのような結果になるのでしょうか。ちなみに、過去の予測値と実測値の比較を図7に示します。

一方、ヒノキの花芽も比較的に目立つように思われました（図8、9）が、ヒノキ花粉の飛散は毎年のことながら蓋を開けてみないとわかりません。

新型コロナウイルス感染症も未だに先行きが不透明な状況です。コロナに対しては、屋外ではマスクは不要とも言われるようになりましたが、花粉症はそうはいきません。しっかりとした対策を講じましょう。

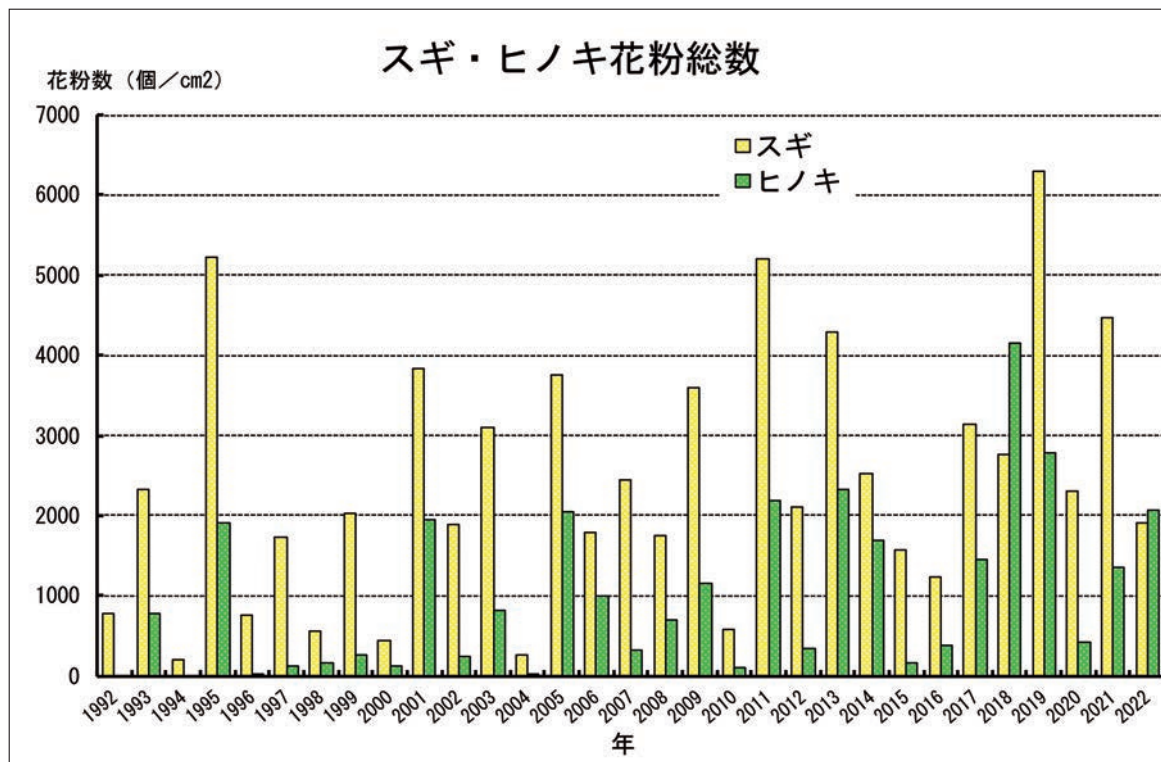


図1 年別スギ・ヒノキ花粉総数

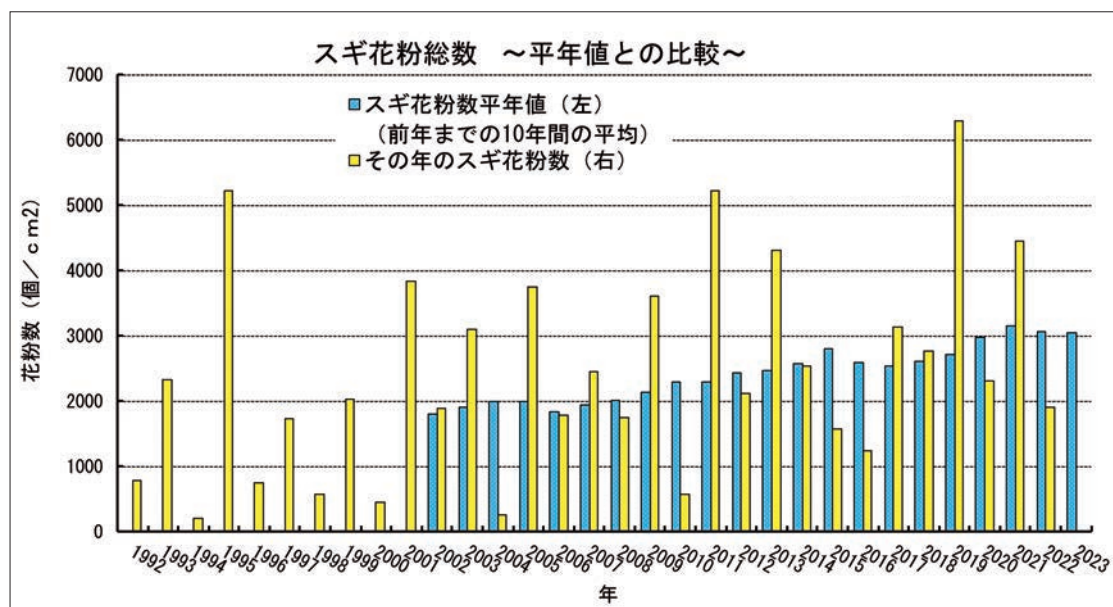


図2 2023年のシーズン前までのスギ花粉総数の平年値



図3 km地点のスギ (2022年秋)



図4 mt地点のスギ (2022年秋)

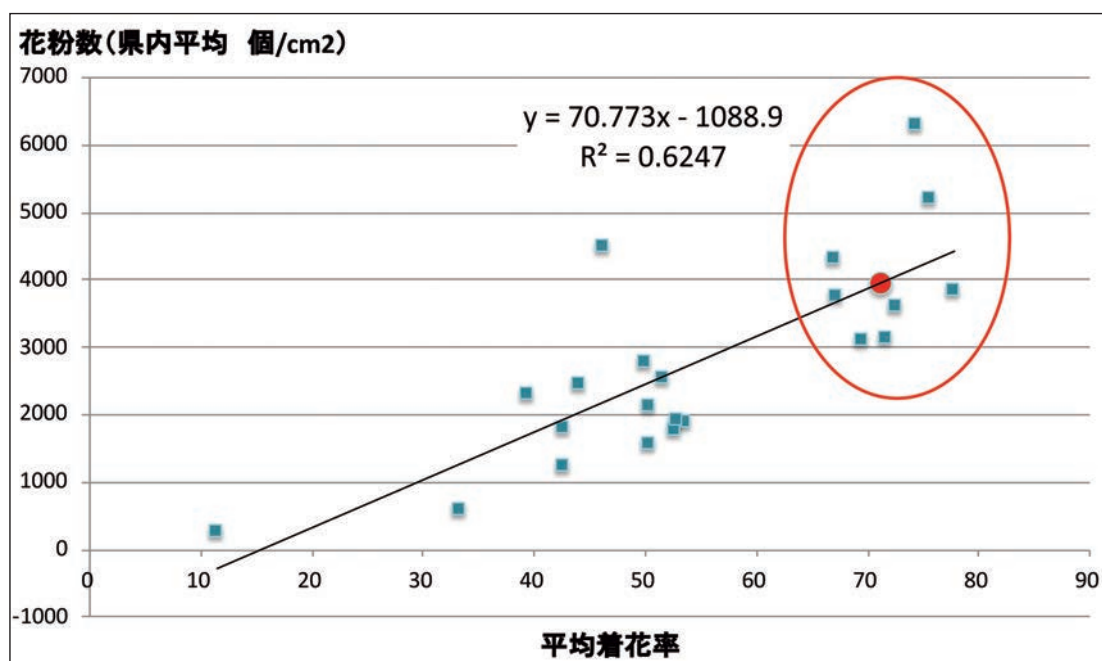


図5 スギ雄花の着花率とスギ総数の回帰式による予測 (2023年)

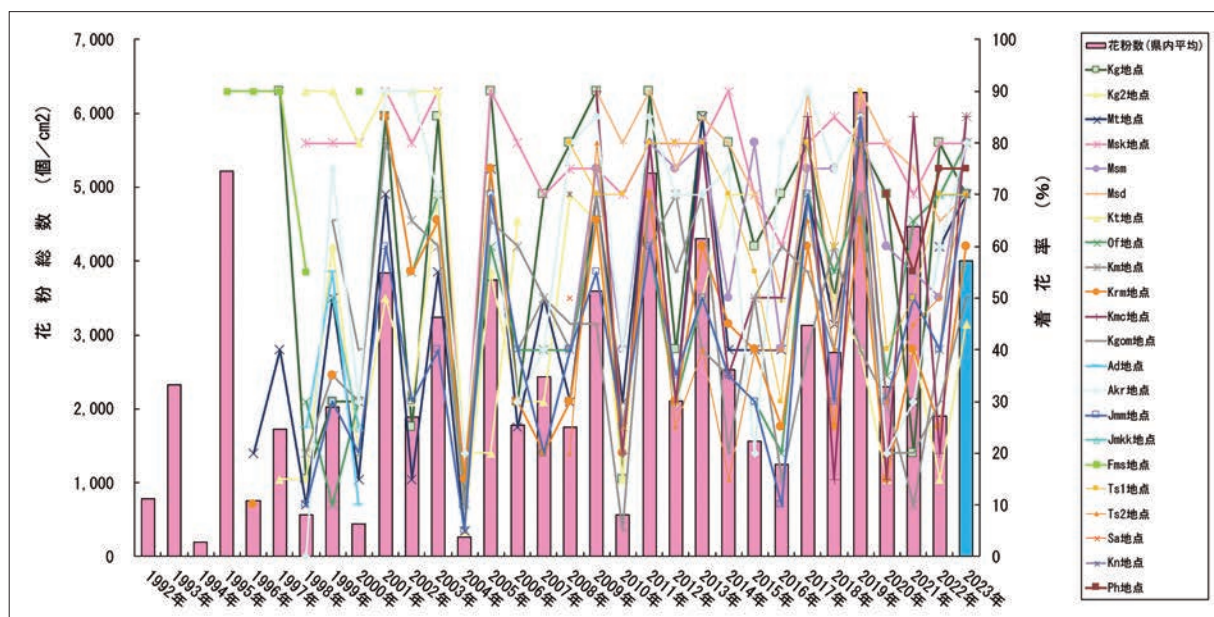


図6 年別のスギ雄花の着花率と花粉総数の比較

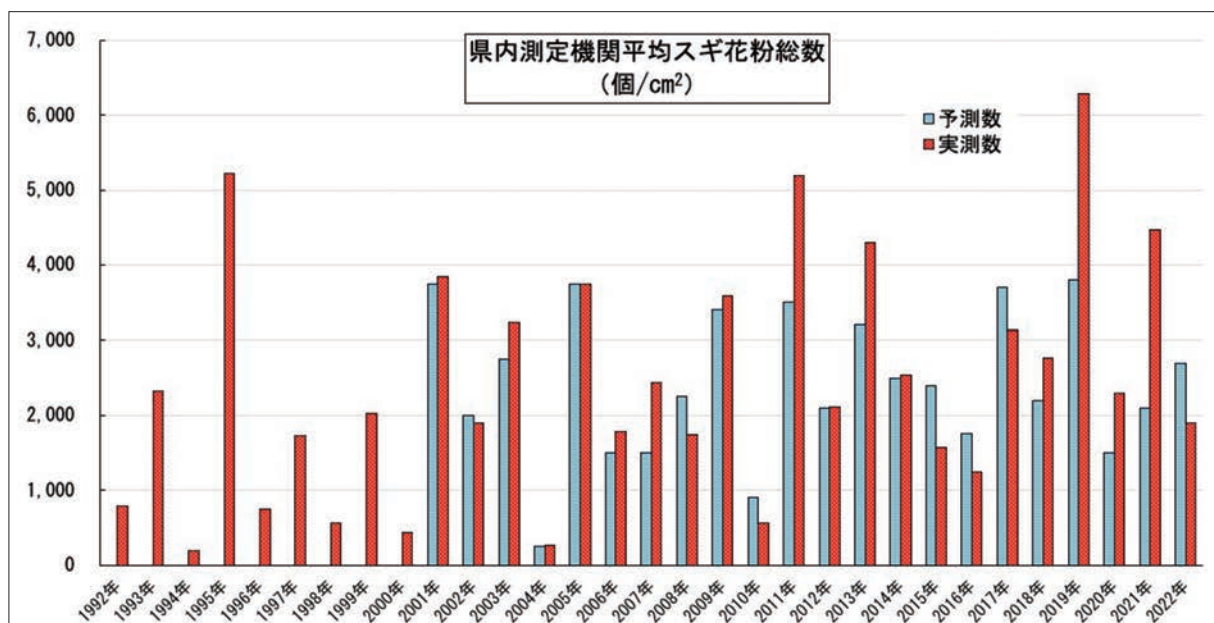


図7 予測値と実測値の比較



図8 mt 地点のヒノキ (2022 年秋)



図9 okg 地点のヒノキ (2022 年秋)

原稿を募集しています！！ - 県医師会報に投稿してみませんか？ -

県医師会では、本会報のコンテンツのさらなる充実を目指して、会員の先生方の原稿を募集します。

下記の 4 つのコーナーのうち、ご興味・ご関心のあるコーナーがありましたら、ふるってご投稿ください。

募集するコーナーとその内容等

■「ニューフェイス」コーナー

対象を「開業 3 年以内」又は「病院の新科長」とさせていただきます。
現在の状況、心境や医療に対する思い、趣味等

■会員の声

主として、医療・医学に関するものを募ります（令和 4 年 2 月より）。

■若き日（青春時代）の思い出

若き日（青春時代）の思い出ばなしなど・・・

■山口県の先端医療は今・・・

自院の先端医療のご紹介

字数制限、原稿の採否等

1. 「字数：3,000 字程度、写真：3 枚程度」と統一させていただきましたので、ご確認いただきますようお願いいたします。
2. 原稿の内容につきましては、提出された翌月に開催する広報委員会で検討させていただきます、採否につきましては同委員会にご一任ください。場合によっては掲載をお断りすることがあります*。

※公序良俗に反するもの、特定の個人を誹謗中傷するもの、政治・宗教に関するものは掲載できません。

詳細に関するお問い合わせ先

山口県医師会事務局総務課内 会報編集係

TEL：083-922-2510 FAX：083-922-2527

E-mail：kaihou@yamaguchi.med.or.jp

今月の視点

思春期診療とその課題

常任理事 河村 一郎

思春期とは、WHO（世界保健機関）の定義では「二次性徴の出現（乳房発育・声変わりなど）から性成熟（性機能が成熟する18～20歳ごろ）までの段階」とある。心身ともに大きく変化し、一人の成人として自立していく重要な時期である。ただ、身体的な成熟に相反して心理的・社会的自立を据え置かれて、不安定で精神的に危機に陥りやすい時期でもある。そのため、成人とも小児とも異なる独特の不定愁訴、心身症や起立性調節障害、不登校、うつや自殺企図、ゲームなどのメディア依存、摂食障害、性の問題などさまざまな問題が起こりうる。特にコロナ禍にあり、そういった問題が増えている。また思春期を診るのは小児科医なのか内科医なのか移行期にあり、専門的に診る医師があまりおらず、診療に苦慮しているケースも多くあると思われる。

その中で、近年最も増加していると思われるのは不登校である。令和3年度に30日以上登校せず不登校とされた小中学生は、前年度から24.9%増え、過去最高の24万4,940人だったことが文部科学省の全国調査で分かった。初めて20万人を超え、増え幅も過去最大となっている。山口県でも令和2年度に小学校で611名、中学校で1,455名、高等学校で267名と、特に小・中学校での不登校児童生徒数の増加が顕著に見られる。私の経験でも同様な印象を持っており、保育園・幼稚園などの登園しぶりも見られ、低年齢化しているように思われる。不登校の要因として県の報告では、小学校では「無気力、不安」が最も多く、次いで「親子の関わり方」「生活リズムの乱れ・あそび・非行」、中学校では「無気力、不安」に続き、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」

「生活リズムの乱れ・あそび・非行」とされている。ただ、私の印象では不登校の要因はもっとさまざまな問題がある。コロナ禍で対話が不足し、マスク越しで表情が読み取れない、もともと発達障害など素因があるなどからコミュニケーションが不足し、友人、教師との関係がうまくいかなるケース、他人の目が気になり不安からなかなか登校できなくなるケース、クラスメイトによるいじめのケース、ヤングケアラーも含む家庭環境によるケース、一種の摂食障害と言えるかもしれないが給食が時間内に食べられない、量が多くて食べられないことから不登校になるケース、ゲームやユーチューブなどに依存していき登校しなくなるケース（これは不登校だから依存するのか、依存から不登校になるのかよく分からない）など多様である。こういった問題を解決するには学校、かかりつけ医のみでは難しく、スクールカウンセラーを含む心理士、スクールソーシャルワーカー、保健師、精神科医など多職種の協力が必要と思われる。できれば保護者も含めてこれら多職種による定期的な会議、相談会などが開催できればよいと考えるが、実際にはそのようにできている所は少ないと思われる。

次いで問題となっているのは、自殺、自傷行為かと思われる。自殺は中学生、高校生で令和元年から急激に増加しており、令和2年は高校生女子が前年比2倍となっている。特に、いきなり首つり、飛び降りという衝動的な自殺が増えていたとのことである。10代の自殺者数は山口県でも近年5人前後で推移していたが、令和2年は10人であった。服薬自殺も増加しており、特に市販薬での過量内服が増えている。ブロン[®]、

パブロンゴールド®といった市販薬は手に入りやすく、メチルエフェドリン、コデインを含むのでつらい気持ちを和らげる効果があるとされる。近年発売されたメジコン®はデキストロメトルフアンを含み柑橘果汁と一緒に飲むとすぐに致死量に達すると言われている。「死にたい」と言ってくる子は実は「死にたいくらいつらい、しかしそのつらさが少しでもやわらぐのであれば生きたい」と思っている。そういった子には「よく言ってくれた」とほめてあげる、話を聞いてあげることが重要とされている。国立精神・神経医療研究センターの松本俊彦 先生の話では、自傷行為は小学生以上のアンケートで、「実際に自分の体を傷つけたことがある」と答えた子が17%に上っているとされる。ただし、自傷行為の一部はエスカレートして自殺企図になるケースもあるが、多くは怒り、不安などの不快感情を軽減するためとのことで、体の痛みが解放感、安堵感などをもたらす鎮痛効果（モルヒネの効果）があるとのことである。切るとホッとする、ス〜ッとする、つらい出来事・感情を忘れて表情が穏やかになる、死のうと思っているわけではないとのことである。そういった子は周囲に信頼できる大人がいなくて援助を求めることができない。だから、その子が相談してきたら「傷つけちゃダメ」と言っただけではいけない、反応せず無視しておくのもいけない、自殺企図の子と同様、信頼できる支援者になることが重要と言われている。

他、性の問題はさまざまあり、10代前半での妊娠、性的暴力、性感染症、性別違和などある。10代での出生数は令和2年度山口県では102人であるが、15歳以下が2人いる。性的暴力については、2020年12月の男女5,000人への調査で女性の6.9%が無理やり性交等された経験があるとされている。性感染症も平成29年から増加傾向にあり、山口県は全国に比べて10代の性感染症罹患率が高い。クラミジアが多いが、特に梅毒の増加が目立つ。性別違和については、LGBT（レズビアン (Lesbian)、ゲイ (Gay)、バイセクシュアル (Bisexual)、トランスジェンダー (Transgender))、それに Q (Queer あるいは Questioning) を加えて LGBTQ と言われることも

あるが、LGB は性的指向、T は性自認という別物であるということで、SOGI (Sexual Orientation and Gender Identity) と呼ばれることもある。電通が2015年に行った調査では、成人男女約7万人中7.6%が、2018年では6万人中8.9%がLGBTであったとしており、20人に一人以上はいることになり、小児期、あるいは思春期から性別違和感を持って生活している子はいると思われる。こういったさまざまな性の問題に対応するには学校、家庭での性教育、産婦人科医の協力も必須であると思われる。

以上のように、思春期の問題は多様であり、多職種の協力が必要と考える。令和5年4月こども家庭庁が創設され、令和6年4月から改正児童福祉法が施行される。その概略として、市区町村において「子ども拠点総合支援拠点」と「子育て世代包括支援センター」を見直し、すべての妊産婦、子育て世帯、子どもへの一体的に相談支援機能を有する機関（こども家庭センター）の設置に努めることとするとある。これまで、子育て世代包括支援センターが思春期の問題まで十分対応しきれていたとは言えないと思われる。今後、多職種の連携がうまくできるように「こども家庭センター」に期待したい。

参考図書

『自傷・自殺する子どもたち』 松本俊彦著

県下唯一の医書出版協会特約店

医学書専門 井上書店
看護学書

〒755-8566 宇部市南小串2丁目3-1(山口大学医学部横)

TEL 0836 (34) 3424 FAX 0836 (34) 3090

【ホームページアドレス】 <http://www.mm-inoue.co.jp/mb>.

新刊の試覧・山銀の自動振替をご利用下さい。

フォトコンテスト審査会

と き 令和4年10月6日(木)

ところ 山口県医師会6階会議室

〔報告：常任理事 長谷川奈津江〕

対外広報事業として、「いのち きずな やさしさ」をテーマにしたフォトコンテストを今年度も開催した。応募者を「山口県内在住の方のみ」に限定させていただいているが、51名の方から、計129作品のご応募をいただいた。

今回も審査委員長として、写真集『結界』で第34回^{どもんけん}門拳賞を受賞されている萩市在住の写真家下瀬信雄氏を迎え、審査員には加藤智栄 会長、沖中芳彦・中村 洋 両副会長、藤原 崇・岡 紳爾 両理事、そして広報委員の渡邊恵幸 先生、岸本千種 先生、石田 健 先生、吉川功一 先生、岡山智亮 先生、藤村智之 先生をお願いした。

審査会当日、会議室に並べられたすべての作品を見てみると、愛情の込められた、心を癒してくれる写真ばかりであった。この中から、最優秀賞、優秀賞、下瀬信雄賞、こども賞、新人賞各1点及び佳作4点の計9点の選考を開始した。

審査方法は例年同様、まず、各審査員に付箋9枚を配付し、自分が気に入った作品に貼るというものである。各審査員はそれぞれの感性を活かして、真剣な面持ちで次々に付箋を貼り付けていった。年々、力作揃いで選ぶのが困難になってきており、皆さん、悩みに悩んで選ばれている姿が印象的だった。付箋が貼られた作品を集め、



下瀬審査委員長の進行のもと、審査が進められた。被写体の表情、構図、光の使い方だけでなく、それを通して伝わる撮影者の「伝えたいメッセージ」がわかる、あるいは「発見」や「感動」がはっきりに出ている作品が審査員の心を捉えたようである。審査開始から約50分後、最優秀賞、優秀賞、下瀬信雄賞、こども賞、新人賞の各1点及び佳作4点の各受賞作品が決定した。

なお、受賞作品については、11月13日に開催した県民公開講座(次頁)にて表彰式を行い、下瀬審査委員長に講評を行っていただき、応募いただいたすべての作品展示も同時に開催した。

ご応募いただいた皆さま、審査員の皆さまに深く感謝いたします。



県民公開講座 「コツコツとやるべきことを」

と き 令和4年11月13日（日）13:00～15:00

ところ 山口県総合保健会館 2階「多目的ホール」

【報告：広報委員 石田 健】



令和4年11月13日（日）13時より、県医師会主催で県民公開講座が開催された。朝はあいにくの空模様であったが、午後には風が強かったものの天候は回復した。新型コロナウイルス感染症予防対策を十分に行った上で、県民の皆様にお越しいただいた。

当日は最初にフォトコンテストの表彰式が開催された。その後、特別講演として2006年のFIFAワールドカップに主軸として活躍され、また、引退前はレノファ山口でチームに貢献された、坪井慶介氏に講演いただいた。



フォトコンテスト表彰式

今回、坪井氏が小学生や中学生でどのように考えていたか、何を学んだか、努力していたかを中心に伝えたいと言われ、演題は「コツコツとやるべきことを」であった。

小学校3年生のころは嫌々サッカーをしていたが、ディフェンダーをやられ、成功体験を重ねるうちにサッカーにのめり込んでいった。中学生になると、東京都町田市にある強いチームでサッカーができるようになった。しかし、中学2年生の時に岐阜県に転校し、サッカーの環境が整っていない状況であったが、それを理由にあきらめてはいけないこと、今できることを精一杯努力することを学んだことが、その後のサッカー人生の中で大きかったと語られた。

その後、高校と大学での話をされた。

高校は三重県内のサッカーのエリートたちが集まる四日市中央工業高校に進学した。3年生になり、初めて夏のインターハイに出場したが、1回戦で敗退した。残念ながら、高校生活では結果を出すことはできなかった。監督に法政大学への進学を勧められたが合格できず、最終的に福岡大学に進学した。大学時代にはスランプを経験し、21歳になった時に、最終的な判断を自分でして、

言い訳を作らないことが大切だと思った。結果として、4年生の時はプレーに集中できるようになり、その後、プロとして浦和レッズに入団することができた。失敗することから何かを学び、学んだことを成功するまで続けたことに尽きる。この結果、プロサッカー選手として18年間過ごすことができたと言われていた。

続けて、会場からの質問を受けられ、山口県民ではないが山口県で過ごされた時に気づいたことは、との質問に対し、サポーターが温かいこと、そして山口県の食事、魚がおいしいことを話されていた。

当日はワールドカップの開催間近であったので、ワールドカップについての話もされた。どのチームも初戦が大切であり、初戦で勝ち点3が取れるのが理想だが、勝ち点1が取ればよい

と思っている、と述べられた。ワールドカップについて、坪井氏が出場されたドイツ大会で緊張されたか、という質問が会場からあり、前日の夜は違和感なく過ごすことができたが、思い返すとスタジアムに入ってからことは頭が真っ白になりほとんど覚えていない、人生で一番緊張したと話されていたのが印象的だった。

最後に、座長を務められた岡山広報委員が、子どもたちの診療もする中でいろいろな失敗を抱えて相談されたり、不登校なども多かったりするが、今日の坪井氏のお話は子どもたちにも聞かせたい良い話だったと締めくくられた。



フォトコンテスト応募作品展示会場



医業継承・医療連携
医師転職支援システム

〈登録無料・秘密厳守〉

後継体制は万全ですか？

DtoDは後継者でお悩みの
開業医を支援するシステムです。
まずご相談ください。



お問い合わせ先

0120-337-613
受付時間 9:00~18:00(平日)



よい医療は、よい経営から

総合メディカル株式会社
www.sogo-medical.co.jp 東証一部(4775)

山口支店／山口市小郡高砂町1番8号 MY小郡ビル6階
TEL(083)974-0341 FAX(083)974-0342
本社／福岡市中央区天神
■国土交通大臣免許(2)第6343号 ■厚生労働大臣許可番号40-ユ-010064



ホッ！これで安心。

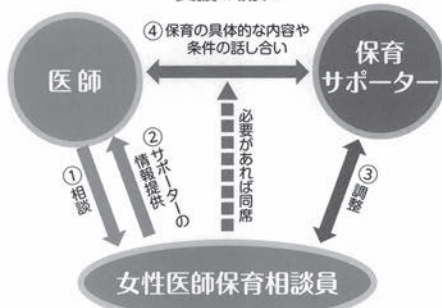
保育サポーターバンクとは…

- 平成21年に山口県医師会に設立しました。
- 目的は、医師が仕事と家庭を両立させることです。
- 支援内容は、保育と併せてできる範囲であれば制限はありません。
- 報酬は医師とサポーターが話し合って決めます。
- 利用している医師から感謝の声が寄せられています。

支援の例

- 子どもと一緒に医師宅でママが帰るまで留守番
- 子どもと一緒に医師宅で留守番をしながら、家族の夕食の支度や簡単な掃除
- ママの都合が悪い時の保育園の迎えと、引き続いて塾への送り
- 残業の日の保育園の迎えと、その後サポーター宅での預かり(子どもの食事を含む)
- ママが当直の日、パパが緊急呼び出しを受けた時のサポーター宅での預かり(待機を含む)
- 学童保育終了時の迎えとその後医師帰宅までいっしょに過ごす

支援の流れ



- 詳しいことのお問い合わせや、サポーターの支援を受けたい時は、下記にご連絡ください。女性医師保育相談員がすぐに対応いたします。山口県内の医師はどなたでも利用できます。
- その他、バンクの運営とは別に、県医師会の女性医師保育相談員は、保育園入園等や民間のベビーシッター派遣に関する相談も受け付けて、できる限りの仲介・調整をします。お気軽にご相談下さい。



山口県医師会 保育サポーターバンクをご活用ください。

仕事と家庭(育児)の両立を目指している
医師の方々へ

育児で困ったら、まずお電話かメールをください
男性医師からの相談も受け付けます

山口県医師会 女性医師保育相談員

TEL090-9502-3715 9:00~17:00

メール・FAXはいつでも受け付けます。

E-mail hoiku@yamaguchi.med.or.jp / FAX083-922-2527

山口県医師会は、育児中の働く医師を応援します!

令和4年度第2回 JMAT やまぐち災害医療研修会

と き 令和4年11月5日(土) 13:00～

ところ 山口県医師会6階会議室(ハイブリッド形式)

[報告: 常任理事 上野 雄史]

JMAT やまぐち災害医療研修会は、JMAT やまぐちプロジェクトチームが企画し、令和3年度から年2回開催している。今回は、テーマを「コロナ禍における避難所運営」とし、講演形式での研修会を開催した。コロナ禍の状況を鑑み、会場及びZoomでのハイブリッド開催とした。参加対象者は、JMAT やまぐち事前登録者、山口県内の医療従事者等、災害医療関係行政担当者とし、当日は82名(現地:17名、Web 65名/職種内訳: 医師27名、薬剤師27名、看護師10名、事務9名、行政関係者7名、その他9名)の参加があった。会場入場数に制限を設け、現地参加者には、検温、健康チェックシートの提出をお願いした。講師には、山口県における避難所運営指針に関して県行政の方、下関で導入した避難所混雑状況確認システムに関して下関市行政の方、令和3年度の大雨で被災地となり、実際にコロナ禍で災害を体験された安芸高田市の行政の方、安芸高田市医師会の方をお願いし、講演1は現地、他の3講演はWebで講演いただいた。

挨拶

加藤会長 ご参加の皆様方におかれましては、新型コロナウイルスの対応及び地域医療の推進にご尽力いただいていることに感謝申し上げます。本会では、平成26年にJMAT やまぐちを発足し、10回目の研修となる。現在、JMAT やまぐちの事前登録は27チーム、192名となっている。近年は被災地におけるJMAT 活動、新型コロナウイルスへの対応が重要となっている。本研修が今後各地域で起こりうる災害対応への一助となることを祈念する。

講演1 コロナ禍における避難所運営について

山口県総務部防災危機管理課

防災企画班長 山元 龍平

県では自然災害から命を守るためには、避難行動が重要であると考えている。そのためには安心して避難できる避難所が必須である。県では「避難所運営マニュアル策定のための基本指針」(R2.10改訂版)を示し、避難所を実際に運営する市町が円滑な避難所運営を行えるよう支援している。感染症に対しては従前より、換気、消毒・手洗い等の対策徹底を促している。令和2年からの新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、基本指針の改訂を行った。ポイントとしては、避難所における密集を避ける、基本的な感染症対策の徹底である。具体的には、段階的な対策として、事前対策、開設時の対策、運営時の対策を示している。事前対策として、住民への広報・啓発、避難所の密集対策、必要な物資の確保、開設時の対策として、スペースを確保したレイアウト、受付での検温、避難者への感染対策の周知、運営時の対策として、保健師による巡回、体調不良者への対応等を示している。健康な人への避難所滞在のスペースのレイアウトとして、テーブル等による区画表示、パーティション、テント利用時のレイアウト、発熱・濃厚接触者専用のレイアウトを、「避難所における新型コロナウイルス感染症への対応の参考資料」(内閣府通知)に準じて示している。

避難所の密を避けるため、避難行動として、安全な親戚・知人宅やホテル・旅館への立ち退き避難もアナウンスしている。浸水避難の際は、自宅が安全であれば、自宅に留まり安全を確保することも可能であることを示している(屋内安全確保の3つの条件 ①家屋倒壊等氾濫想定区域に入っ

ていない、②深水深より居室は高い、③水がひくまで我慢でき、水・食糧などの備えが十分)。

避難所の運営に関し、県では、物資調達・輸送調整等支援システムを用い、山口県支援物資配送訓練を毎年行っている。実際の避難所運営でマンパワー補助として、総務省が構築している応急対策職員派遣制度がある。また、罹災証明書の発行のための現地調査に人手がかかるため、県域を越えての支援制度もある。

避難所運営に関しては、避難された住民の方々にも主体的に協力していただけるような取り組みを地域の方をお願いしている。

講演2 避難所混雑状況(VACAN)について

下関市防災危機管理課主任主事 藤永 潤喜

令和2年9月の台風10号の際、下関市では過去最大の49施設の避難所を開設し、延べ1,365名が避難された。その際、一部の避難所に集中し、避難できない(定員オーバー)、コロナ禍のため密を回避しなければならない、各避難所の避難状況を確認するのに直接問い合わせる必要がある、という課題が生じた。それに対し、スマートフォン、PCで避難所の混雑を確認できるVACAN(バカン)を導入した。導入の決め手としては、導入・運用コストが低い、市民が利用しやすい、視認性が高いことが挙げられる。令和3年5月19日に株式会社バカンと下関市で「災害時避難所施設に係る情報の提供に係る協定」を締結し、本格運用を開始した。実際の運用は、下関市では各避難所に2名職員が配置されるが、その職員が各自のスマートフォン等から、管理画面において混雑状況を入力することで、利用者がエリアマップで地域の避難所の位置と混雑状況を確認できる。導入後のメリット・効果として、各避難所での混雑状況が可視化される、避難所の混雑の抑制、ブラウザ上で情報配信するため、避難者だけでなく遠方の家族でも混雑情報が確認できる、課題から半年でスピーディーに導入できた、災害対策本部への避難所に関する電話での問い合わせが減ったことが挙げられる。

下関市は災害時、下関市南部町の下関市役所本庁舎西棟5階大会議室に災害対策本部を設置す

る。地域医療調整本部は下関市役所本庁舎西棟3階307会議室に、保健部が主体となって設置する。毎年1月17日(阪神淡路大震災発生日)に、下関市・長門市・美祢市で3市合同防災図上訓練を行っている。災害時には、多くの機関からの協力が必要と考えており、災害発生時にご協力を賜りたい。

下関市防災危機管理課では市民に対し、避難所の運営訓練として、段ボールベッドの設営訓練を行っている。避難所の運営の支援目的だけでなく、防災意識を高めることも期待している。

VACAN(バカン)に関しては、今後、実際に避難された方に対し、QRコードを振り分け、入退所等の管理を行うことも検討している。

講演3 安芸高田市における避難所運営について

安芸高田市危機管理監危機管理課

係長 塚本 真樹

令和3年8月11日からの大雨による災害では、車での移動中に土砂災害に巻き込まれた人的被害が1名、川岸が削られたことによる全壊3棟、半壊46棟、床上浸水97棟、床下浸水182棟が生じた。8月12日～8月28日まで延べ1,211世帯、2,480名の避難者があった。一避難所でのピーク時の避難者数は、8月13日20時、280世帯、429名であった。避難所でのコロナ対策として、受付での検温、マスク着用及び手指消毒の徹底、受付の対面フィルム設置、避難者間隔の確保・施設内消毒、パーティション設置、こども・乳児同伴、要介護者、体調不良者に対しては別室の確保等の対応を行った。県及び各団体から多くの支援をいただいた。「令和三年八月十一日からの大雨による災害の記録」を作成し安芸高田市ホームページで公表しているのでご覧いただきたい。

避難所運営に関する取組として、本庁に隣接するクリスタルアージュ(安芸高田市民文化センター)における避難所設置に関し説明する。4階建ての建物で、2～4階を避難場所として利用。本庁及び各支所で食料の備蓄(乾パン、アルファ米、そのままご飯、ビスコ、パン、飲料水、ミルク)。寝具・衣類の備蓄としては、毛布、間仕切り(4部屋セット)を備蓄。コロナ禍においては、ワン

タッチ間仕切りテント、段ボール間仕切り等が有用である。医薬品・医療資機材の備蓄に関しては、従来の救急セットに加え、感染対策として、マスク、使い捨て手袋、防護服も備蓄。換気対策として、体育館のような施設では大型の扇風機、発電機、CO₂濃度測定器を備蓄。市民福祉部が「避難所設置・運営マニュアル(クリスタルアージュ編)」を作成しており、受付設置、間仕切り設営等の訓練を行っている。本市も、先ほど、下関市からご紹介があった、VACAN と提携し避難所の混雑可視化システムを導入している。防災体制の強化として、本年度、運送会社との災害時の協定を締結し避難所への支援物資配送や物資集積・搬送拠点での荷役作業を担ってもらうようになった。株式会社イズミと「地域活性化包括連携協定」を締結し、災害時、屋上を避難場所として利用することが可能となった。自動車関連会社と、協定を締結し、避難所等での停電時の応急対策のため、車両等の貸与の協力要請を行えるようになった。

市だけでは対応できない大きな災害が発生している。これからも防災体制の強化にできる限りの取り組みを進めていきたいと考えている。

講演4 令和3年度の大雨における医師会の被害・対応、現在の医師会の備え等について

安芸高田市医師会事務長 近村美由紀

安芸高田市は広島県北部に位置し、人口27,126人、高齢化率40.9%、6町からなり、吉田町に安芸高田医師会がある。医師会員59名、診療所21か所、総合病院(JA吉田総合病院)1か所あり、医師会が訪問看護ステーション(利用者130人)、居宅介護支援事業所(利用者62人)を運営している。令和3年8月13日の大雨による災害では、河川氾濫によるJA吉田総合病院の浸水被害があった。医師会館自体への直接の浸水被害はなかったが、後にハザードマップを確認すると1~3m、浸水が最大12時間持続するとの浸水被害予想がなされていた。8月13日から17日までの医師会の動き、JA吉田総合病院の動きの時系列は図1~6の通り。

医師会の災害時の備えとして、平成25年広島県地域医療再生計画での災害時の救急医療体制整

備事業で、県の補助をいただき、投光器、救急医療セット、酸素ボンベ、血圧計、点滴台、担架、感染防護用品を準備していた。災害用備蓄として、利用者、職員向けに、サバイバルフーズ、水の備蓄を毎年増やしている。また、非常用トイレ、土嚢、ブルーシート等も準備しており、今後、コンロ、発電機の備蓄を予定している。訪問看護の契約時に災害時に備えての準備を書面でお願いしている。2019年に災害マトリックスとして安芸高田市で起こりうる災害を書き出し、災害発生時の指針を示している(図7)。これをさらにBCPに繋げていきたいと考えている。

今後の災害対策として、連絡網を作っているが、連絡先だけではうまく活用できないと思われ、LINE等の導入ができればと考えている。安芸高田市内の医療機関・介護事業所・施設への情報提供を行い、災害をどう乗り切るか、考える機会を設けられたらと思う。

コロナ禍での避難所運営の指針に関しては、令和2年4月以降、度々の改訂があり、内閣府通知が発出されている。県行政では、それに準じ、避難所開設の指針の変更、周知、資機材の準備・備蓄、実動訓練等、さまざまな事項に対応されている。避難所でのマンパワーの確保は重要で、地域住民の協力が不可欠であり、事前に協力体制を構築しておくことが望まれる。避難所混雑状況確認システムに関しては、今後、さらに活用の幅が広がることが期待できる利便性の高いシステムであると思われる。

安芸高田市の塚本様、安芸高田市医師会の近村様は、以前にも災害や災害支援に携わられた経験があり、事前に災害対策を備えたうえでの被災であったが、実際の災害においては、想定外のさまざまな事象が短期間で発生し、その対応に大変苦慮されたという印象であった。

新型コロナウイルス感染症だけでなく、他地域での事例等を踏まえ、起こりうる状況を想定し、県内各地域において、災害対策を構築することが望まれる。

8月13日（金） 医師会の動き	
・6時30分	職員に出勤は各自で判断、危険な場合は無理をしないことを伝える 平時は通勤に15分のところ迂回しながら1時間かかって出勤する
・8時30分	パート職員に自宅待機を指示 吉田・美土里線は通行止め 本日の利用者の状況と訪問調整を指示
・9時～	吉田総合病院・・・浸水のため診療の中止と連絡が入る
・9時25分	稲田橋から濁流が流れてくると声かけあり、PC・カルテ等を2階へ移動を始める 本日のZoom会議の中止と吉田病院の状況を各先生へ電話連絡 ゴミ袋で水嚢を作り設置

図 1

8月13日（金） 医師会の動き	
・9時40分	公用車駐車場に瓦礫と濁流が流れ込む 裏の駐車場にある用水路も氾濫するが、浸水は逃れる 訪問看護・居宅の利用者でHOT中の方の避難要請、垂直避難
・10時	水が引き始める
・11時	訪問介護事業所より認知症の利用者の避難支援の要請あり
・昼～	瓦礫等の片づけ 公用車の移動 本日の訪問看護 定期訪問27件中8件訪問 床下浸水被害 2件（1名避難） 避難された方 2名 訪問中止した利用者については担当ケアマネに報告

図 2

8月13日（金） 医師会の動き	
・職員	15名うち8名出勤、直行直帰1名 自宅待機者3名 休暇3名
・15時	パート職員は帰宅するが通行止めのため帰って来ず ワクチン集団接種は8月13日～16日はお休み
・17時	ブレーカーを落とす 迂回路を通り帰宅する
・19時	全員無事帰宅を確認

図 3

8月14日（土）～ 医師会の動き	
8月14日（土）	・医師会館の状況確認 ・JA吉田総合病院へお見舞い伺い（向原～吉田線を利用、甲田周りは不通） 吉田病院付近の54号線沿いにある商店や家屋では、浸水し瓦礫や土砂のかきだしを されている
8月16日（月）	・PC設置 FAX接続（復旧に時間がかかった） 訪問看護、居宅は平常運営
8月17日（火）	・13日の水害状況の報告と各診療所へ被害調査を実施

図 4

8月13日（金） JA吉田総合病院の動き	
浸水場所	本館1階（正面玄関、外来入り） 老健棟（透析センター、リハビリ室） 別館1階（入院病棟）
・外来診療を休止、外来患者を南館に避難、透析実施を中断し避難	
・1階入院患者（36名）を老健施設2階に避難	
・1階エレベーター故障、救急受け入れ困難となる	
・エレベーターが使用できないため、食事を職員が運ぶ	
・洪水の水位が引いた後、片付け並びに清掃を実施 ～ 22時	
・透析のスケジュールについて患者へ連絡、内服薬の確認の連絡	

図 5

8月14日（土） JA吉田総合病院の動き	
・透析実施を再開（3クール）	
午前中 2クール 午後 1クール	
2名は通行止めにより他病院へ依頼する	
・前日に引き続き、本館、老健棟の清掃と消毒を実施	
8月15日（日） JA吉田総合病院の動き	
・透析室消毒	
・エレベーター1基のみ稼働回復	
・救急受け入れを再開	
・浸水被害箇所の清掃、病院周辺の散乱ゴミを回収	
・月曜日（16日）から通常診療と判断	

図 6

災害マトリックス		
緊急段階（命を守る） 救命・救済活動・直撃と最大被害 【個人】 ・経過レベルに応じた対応を決める ・自分の命、家族の命を守る ・安全な場所へ移動、連絡方法決めておく ・停電でも使えるラジオ、照明の確認 【看護師として】 ・早めの避難を促す ・内服の確認 ・被害状況の確認、けがや被災状況の確認 ・利用者への対応、健康状態の観察、指示 ・安全を確保したうえでの支援を行う ・在宅への支援 ・避難所への支援 ・必要に応じて入院・施設入所の手配 【留意点】 ・ガスの元栓締める ・停電したらスイッチを切ってプラグを抜く ・避難する時はブレーカーを切る	緊急段階（生活を守る） 救命・救済活動予段階 【個人】 ・被害状況の確認（危険を冒さない） ・3日間生活ができる備蓄 ・避難所への情報収集 ・近隣の支え合い ・SOSの発信 【看護師として】 ・安全確保＝身体的、精神的（助言支援） ・他職種との連携、情報交換 ・ニーズの把握 ・感染防止 ・必要時、医療、福祉につなぐ 【留意点】 ・二次災害防止 火事	応急段階 避難所生活支援 【個人】 ・食事、睡眠、排泄状態の確認と確保 ・安全確保 ・感染に注意（食中毒、インフルエンザ等） ・健康管理 ・水分補給 ・保温のための毛布 ・移動手段の確認...ガソリン 【看護師として】 ・健康管理 ・困りごと相談 ・医療的支援者の把握、必要に応じて施設へ搬ぐ ・状況に応じ、医療・福祉・保健に繋ぐ ・話を聞く
防災対策 ・用水路や居住周囲の管理 ・防災訓練と修繕 ・平時からの情報交換、周囲との情報共有 ・平時の準備（食料、水等の備蓄） ・災害時持出荷物の作成と定期確認 ・利用者への防災について考えてもらう機会を設ける。 （年に1～2回） ・独居者、医療依存者の把握	安芸高田市で起こりうる災害 ・地震 ・大雨・台風 ・火災 ・土砂災害（かけずれ、土石流、地すべり） ・洪水、浸水 ・堤、ダムの決壊 ・河川の氾濫 ・火事 ・大雪	応急段階 住宅確保支援 ・健康状況の確認及び必要な支援 ・食事、睡眠、排泄状態の確認と確保 ・情報収集 ・ブルーシート ・土のうなどの手配 ・1人暮らし、老々介護、認知介護の方への声掛け ・医療的支援者の把握、必要に応じて施設へ搬ぐ、連携をとる ・状況に応じ、医療・福祉・保健に繋ぐ ・地域の助け合い
減災対策 防災まちづくり ・ハザードマップ作成 ・地域の危険区域の把握 ・近所住民との交流 ・用水路、河川周囲の整備	災害関連死をつくらない ・感染予防 ・地域の助け合い ・出向く場所作り ・ストレス支援 ・中長期支援 ・同一体位をとらない ・見守り、声掛け ・1人で動けない人の把握	生活の場確保 ・安定した生活への支援 ・日常生活用品の確保 ・避難所の確認 ・健康状況

図 7

理 事 会

— 第 17 回 —

11 月 24 日 午後 5 時～6 時 30 分

加藤会長、沖中・中村両副会長、伊藤専務理事、
前川・河村・長谷川・上野・茶川・縄田
各常任理事、白澤・藤原・竹中・木村・藤井・
國近各理事、宮本・友近各監事

協議事項

1 新型コロナウイルス感染症対応「休業一時金」 の申請について

申請 1 件について審査し、給付することを決定した。

人事事項

1 勤務医部会の役員について

役員の異動に伴い、1 名を理事に委嘱することを決定した。

報告事項

1 オンライン資格確認システム導入に向けての Web 説明会（11 月 10 日）

標記説明会を開催し、システムの導入説明に関して厚生労働省からの説明の後、質疑応答が行われた。参加者 131 人。（伊藤）

2 衛生検査所立入検査「岩国」（11 月 11 日）

衛生検査所の検査業務や事務作業等に関する事項の立入検査を実施した。（茶川）

3 第 53 回全国学校保健・学校医大会

（11 月 12 日）

「子どもたちの『生きる力』を育む」をテーマに岩手県医師会の担当で開催された。午前は 5 つの分科会、午後は開会式・表彰式に続き白梅学園の無藤名誉教授による特別講演「幼児期・学童

期における認知的力と非認知的力の意義」の後、「子どもたちの『生きる力』を育む」をテーマとしたシンポジウムが行われた。（河村、沖中）

4 第 53 回全国学校保健・学校医大会「都道府 県医師会連絡会議」（11 月 12 日）

日本医師会松本会長等の挨拶の後、経過報告、次期担当医師会についての協議、国からの報告等が行われた。（河村）

5 イーレジフェアオンライン 2022（11 月 13 日）

12 病院が参加し、説明会を実施した。参加した学生は 288 名。（中村）

6 県民公開講座（11 月 13 日）

第 13 回フォトコンテストの表彰式の後、元サッカー日本代表で元レノファ山口選手の坪井慶介氏による「コツコツとやるべきことを」と題した特別講演が行われ、参加者は 83 名であった。（藤原）

7 山口県地域両立支援推進チーム第 6 回会議

（11 月 14 日）

山口県地域両立支援推進チームアクションプラン、治療と仕事の両立支援に係るアンケート結果等について協議を行った。（中村）

8 第 2 回山口・防府医療圏地域医療構想調整会 議：検討部会「Web」（11 月 14 日）

令和 3 年度の病床機能報告結果、県立総合医療センターの機能強化等について意見交換等を行った。（前川）

9 第 1 回山口県国民健康保険運営協議会

（11 月 15 日）

本県の国民健康保険の概況、令和 3 年度国民健康保険特別会計決算剰余金の使途等について協議を行った。（沖中）

理 事 会

10 第2回都道府県医師会長会議「Web」

(11月15日)

「医療従事者の安全を確保するための対策について」をテーマとしたグループ討議や都道府県医師会から日本医師会への質問・答弁等を行った。また、「地域における面としてのかかりつけ医機能～かかりつけ医機能が発揮される制度整備に向けて～」と題した報告が行われた。(加藤)

11 社会保険診療報酬支払基金山口事務局審査運営協議会 (11月16日)

審査結果の不合理な差異解消の検討状況、オンライン資格確認等の状況等について協議を行った。(加藤)

12 第9回山口県新型コロナウイルス感染症専門家会議「Web」(11月16日)

新型コロナウイルスのオミクロン株への対応状況と今冬の感染再拡大を想定した対応等について意見交換等を行った。(沖中)

13 宇部市医師会勤務医部会総会 (11月16日)

総会では、令和3年度の活動報告及び収支決算報告、令和4年度の活動(案)及び収支予算(案)について審議し、その後医師の働き方改革推進への意見等について協議を行った。また、講演会では「医師の働き方改革について」「働き方改革関連法について 医師の労働時間規制」と題した講演が行われた。(加藤)

14 個別指導 (11月17日)

下関市内の病院の指導の立会を行った。(伊藤)

15 山口県配偶者暴力相談支援連絡協議会

(11月17日)

県及び関係機関・団体等の配偶者暴力対策の取組について、山口県男女共同参画課・男女共同参画相談センター等からの報告・情報交換を行っ

た。(事務局長)

16 郡市医師会産業保健担当理事協議会

(11月17日)

県医師会主催・郡市医師会協力による産業医研修会の令和4年度の開催予定や産業医研修会におけるIT利用等について協議を行った。(中村)

17 郡市医師会学校保健担当理事協議会・学校医部会合同会議 (11月17日)

学校における新型コロナウイルス感染症対策、学校保健担当理事・学校医部会委員からの意見・質問等について協議を行った。(河村)

18 山口県高齢者保健福祉推進会議(11月18日)

第七次やまぐち高齢者プランの進捗評価、保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金評価指標の進捗評価等について協議を行った。(伊藤)

19 主治医意見書記載のための主治医研修会

(11月19日)

山口県健康福祉部長寿社会課介護保険班の綿原主査による「介護保険制度について」、山口県介護支援専門員協会の佐々木会長による「主治医意見書について～介護支援専門員アンケートより～」、(医)水の木会下関病院中山医師による「主治医意見書記載のポイント～認知症疾患について～」の3講演が行われた。受講者26名。(伊藤)

20 第165回生涯研修セミナー (11月20日)

山口大学大学院医学系研究科の濱野公一教授、同大学医学部附属病院手術部の田中俊樹講師による「胸部外科治療の進歩—治療内容の変遷と山口県内の手術症例数の推移—」、横浜市立大学医学部産婦人科学教室の宮城悦子教授による「子宮頸がん予防2022」、山口大学大学院医学系研究科泌尿器科学の白石晃司教授による「加齢男

理 事 会

性腺機能低下症（LOH 症候群）」、聖路加国際病院リウマチ膠原病センターの岡田正人 センター長による「SLE の診断と治療～難治症例も含めて」の講演4題を行った。参加者51名。

（茶川、白澤、縄田）

21 吉南医師会との懇談会（11月21日）

来年度の県の施策・予算に関する要望等の県医師会提出議題、医師会組織率の上昇への取組等の吉南医師会提出議題について意見交換を行った。

（伊藤）

22 第1回宇部・小野田医療圏地域医療構想調整会議：検討部会「Web」（11月21日）

回復期・慢性期医療連携検討部会設置要綱の変更、令和3年度の病床機能報告、病床機能再編支援事業、小野田赤十字病院の単独病床機能再編計画及び2025プラン変更についての説明・意見交換を行った。（前川）

23 中国地方社会保険医療協議会山口部会

（11月22日）

医科では新規4件、更新63件が承認された。

（加藤）

24 女性医師支援・ドクターバンク連携中国・四国ブロック会議（11月23日）

広島県医師会の担当により広島市で開催され、日本医師会女性医師支援センターからの報告の後、「医師のキャリア支援と医師確保の取り組み」と題して世代別キャリア支援等の3つの具体的な支援策の検討を行った。（長谷川）

25 中国四国医師会連合医事紛争研究会

（11月23日）

「患者トラブル等への対応」をテーマに医事紛争事案や医療従事者等を暴力から守る方策等、4題について協議した後、各県からの提出議題に関する意見交換、日本医師会への要望・提言等を行った。（縄田）

医師国保理事会 ー第13回ー

協議事項

1 傷病手当金支給申請について

1件について協議、承認。

自動車保険・火災保険・積立保険・交通事故傷害

保険・医師賠償責任保険・所得補償保険・傷害保険ほか

あなたにしあわせをつなぐ

損害保険ジャパン株式会社 代理店
共栄火災海上保険株式会社 代理店
山 福 株 式 会 社
TEL 083-922-2551

日医FAXニュース

2022年(令和4年)11月29日 3092号

- 職種別給与額、提出義務化の声は「遺憾」
- かかりつけ機能、外来GLで「取扱い検討」
- 感染症法を参院で可決、今国会で成立へ
- 医療法人・持分保有、行政の監視強化を

2022年(令和4年)12月6日 3094号

- 22年度薬価調査、平均乖離率は約7.0%
- 同時流行へ外来体制強化の方針発表
- 改正感染症法が成立
- 20年度国民医療費は42兆9665億円

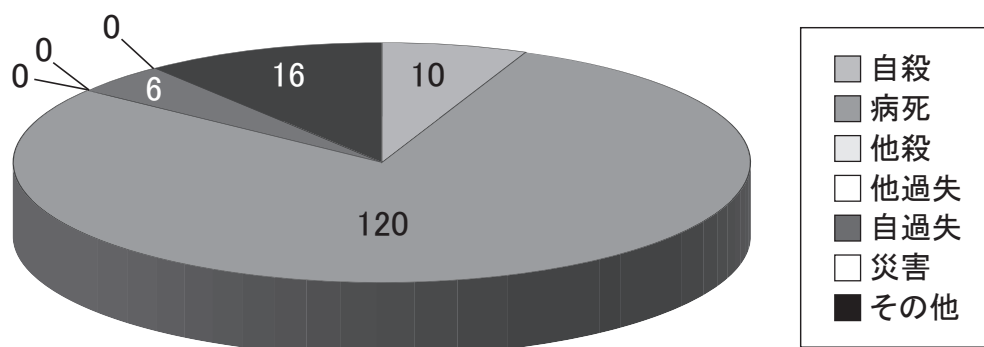
2022年(令和4年)12月2日 3093号

- コロナの新変異株、割合増加に注視必要
- 新たなかかりつけ制度案を提示
- 経営情報DBは来年度施行へ
- 電子処方箋運用、HPKIの不安払拭へ

死体検案数掲載について

	自殺	病死	他殺	他過失	自過失	災害	その他	合計
Nov-22	10	120	0	0	6	0	16	152

死体検案数と死亡種別(令和4年11月分)



山口銀行はスマホ1つで
いつでも、どこでも、カンタンに

□座開設も

残高照会も

お振込も

お店に行かなくても大丈夫。便利に使えるアプリです。

この世界で。
この街で。
このじぶん。**YMfg****山口銀行**

お問合せはヘルプデスクへ

0120-307-969

■受付時間(平日・土日祝)
7:00~23:00

ポータルアプリ

ダウンロードは
コチラから



第166回山口県医師会生涯研修セミナー 令和4年度山口県医師会勤務医部会総会・講演会

と き 令和5年2月19日（日）10：00～15：00
と ころ 山口県医師会6階 会議室（山口市吉敷下東三丁目1番1号）

次 第

○特別講演1 10：00～11：00

あっと驚くてんかんとふるえの最新治療

山口県立総合医療センター脳神経外科・てんかんセンター 藤井 正美

○特別講演2 11：00～12：00

最近の不整脈治療について

広島大学大学院医系科学研究科循環器内科学教授 中野由紀子

○山口県医師会勤務医部会総会 13：00～13：15

○山口県医師会勤務医部会講演会 13：15～15：00

講演1 13：15～13：50

臨床研修屋根瓦塾 KYOTO を通じた医師会と若手医師との繋がり

京都府医師会理事

京都第二赤十字病院消化器内科 堀田 祐馬

講演2 13：50～15：00

医師会による若手医師・女性医師の支援戦略：

地元への若手医師の定着を目指して

京都府医師会理事

京都大学医学部附属病院医療安全管理部教授 松村 由美

参加費 無料

対象 医師及び医療従事者

取得単位 日本医師会生涯教育制度：3.5単位

特別講演1 CC 32（意識障害）：1単位

特別講演2 CC 43（動悸）：1単位

勤務医部会講演会 CC 0（最新のトピックス・その他）：1.5単位

申込方法 2月10日（金）までにご所属の都市医師会へお申し込みください。

税務署からのお知らせ

■ スマホから確定申告

1 スマホ専用画面

給与所得以外に雑所得や一時所得がある方など、多くの方が

スマホ専用画面

をご利用いただけます。



申告書の作成は
こちらから！



2 e - T a x 送信

「マイナンバーカード」と「マイナンバーカード対応のスマートフォン」をお持ちの方は、e-Tax で送信できます



*マイナンバーカード対応のスマートフォン等をお持ちでない方も、「ID・パスワード方式の届出完了通知」に記載されたID・パスワードがあれば、e-Tax で送信できます。

税務署



毎月勤労統計調査（第二種事業所）の実施について

令和5年1月～2月にかけて、労働者の雇用、賃金及び労働時間の変動を明らかにする目的で、厚生労働省による「毎月勤労統計調査」（統計法に基づく基幹統計調査）のための現況調査が実施されます。

今般は下関市、山口市、岩国市、周南市、上関町の一部地域において、統計調査員による事業所名、所在地、常用労働者数、事業内容などを確認するための訪問調査が行われます。

その後、この調査を基に常用労働者数5～29人の事業所の中から、無作為に調査対象事業所が指定されます。指定された事業所は令和5年7月分から令和6年12月分までの間、毎月訪問する統計調査員に対し、労働者数、賃金及び労働時間について調査回答することになります。

ご不明な点があれば山口県総合企画部統計分析課 商工労働統計班までお問い合わせください。（TEL:083-933-2654）

厚生労働省 HP <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/30-1.html>

表紙写真の募集

山口県医師会報の表紙を飾る写真を随時募集しております。

アナログ写真、デジタル写真を問いません。

ぜひ下記までご連絡ください。

ただし、山口県医師会員撮影のものに限ります。

〒753-0814 山口市吉敷下東3-1-1 山口県医師会総務課内 会報編集係

E-mail : kaihou@yamaguchi.med.or.jp

医師年金

＜認可特定保険業者＞公益社団法人 日本医師会

ご加入のおすすめ

加入資格 64歳6カ月未満の日本医師会会員（会員区分は問いません）

☑ 年金検討チェックリスト

- ☐ 公的年金では現役時代の生活水準を維持できない
- ☐ コツコツ積立てて十分な年金を確保しておきたい
- ☐ 一生涯受け取れる年金が望ましい
- ☐ 受け取れる年金の額を効率的に増やしたい
- ☐ 医師独自のライフスタイルにあった年金がいい
- ☐ 加入前に受取年金額のシミュレーションを確認したい

1つでも該当したら…

医師年金ご加入をおすすめします！

医師年金ホームページで、
簡単シミュレーション！

医師年金 検索

<http://www.med.or.jp/nenkin/>

ご希望の受給額や保険料、生年月日を入力するだけで、簡単に受取年金額のシミュレーションができます。
ぜひお試しください。

個別プランの設計や詳しい資料のご請求はこちら



公益社団法人
日本医師会 年金福祉課

TEL：03-3942-6487(直通)

FAX：03-3942-6503

受付時間：午前9時30分～午後5時(平日)

E-mail：nenkin@po.med.or.jp

保険料からプラン作成

保険料	加算：月払
加算年金 (10口)	月払保険料 60,000円
基本年金	月払保険料 12,000円
支払期間 19年 2ヶ月 (230回)	
合計月払保険料	72,000円

設定条件をご確認ください。

試算日	令和2年 9月 10日
生年月日	昭和50年 1月 1日
試算日年齢	45歳
加入申込期限	令和2年 10月 15日
加入予定年月	令和2年 11月
加入時年齢	45歳 10ヵ月
加算払込開始年月	令和2年 11月
年金受取開始年月	令和22年 1月
年金受取開始年齢	65歳
払込保険料累計	16,560,000円

注意事項です。お読みください。

- ・加入申込期限は、15日が土日・祝祭日の場合は、その前日となります。
- ・「終身年金」は、加入者ご本人であれば一生受け取ることができます。
- ・「保証期間15年」では、受給者ご本人が保証期間中にお亡くなりになった場合、15年の残りの期間について、ご遺族の方が必ず受け取ることができます。
- ・「受取コースの選択(81～84)」は、受取開始の時に決めるいただきます。
- ・受取開始年齢は、75歳まで延長できます。
- ・「受取年金額」は概算です。現在は年率1.5%での計算となっており、将来、年金の制度改定が行われる時は、変更になる場合があります。

受給年金	加算年金	保証期間15年	終身
加算年金	60,000円		
基本年金	12,000円		
支払期間	19年 2ヶ月		
15年受取総額	13,950,000円		
加算年金	5年固定型		
加算年金	276,500円		
基本年金	12,000円		
支払期間	19年 2ヶ月		
15年受取総額	18,912,000円		
加算年金	10年固定型		
加算年金	143,400円		
基本年金	12,000円		
支払期間	19年 2ヶ月		
15年受取総額	19,530,000円		
加算年金	15年固定型		
加算年金	92,100円		
基本年金	12,000円		
支払期間	19年 2ヶ月		
15年受取総額	20,160,000円		

20150601S8

編集後記

今月は広報委員全員から一言ずつ！

◇皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。そして、今年こそCOVID-19が収束しますようお願いしています。(川野)

◆外燈や雪降る舞に己れ知る(渡邊)

◇延び延びになっていた県民公開講座が3年ぶりに開催できました。

元サッカー日本代表の坪井慶介氏は、テレビでのカジュアルな雰囲気と違って、シャープなスーツ姿でした。舞台の袖にいた裏方の役得で、斜め後方から拝見できた立ち姿が見事でした。

前回、ご講演いただいた谷本道哉先生も、颯爽としたスーツ姿が驚きでした。何しろ筋肉体操でのパツパツのシャツの印象が強烈でしたので。

しっかりした骨格と筋肉が、着こなしの土台ですね。

坪井慶介氏のお話にあった「環境のせいにしない、人のせいにしない」を忘れずに、筋トレと脳トレに励みます。(岸本)

◆新型コロナは5類に引き下げられそうです。65歳以上の人の死亡率は2%とされています。自己責任で感染予防を行い、快適な生活を送りましょう。(石田)

◇「2023はアメリカ有人月面探査ミッションArtemisが始動するそうです。2023無人月周回宇宙船打ち上げ、2024有人月周回宇宙船打ち上げ、2025には再び人類が月に降り立つそうです。月面の人類が超高画質で見れることでしょう。今から楽しみです。」と、原稿を書いて送った矢先、無人宇宙船打ち上げが2022のうちに行われました。順調で何よりです。(吉川)

◆この1年は特に普段の診療に新型コロナウイルスの感染が深く関わってきた1年だったと感じます。来院患者に迷惑がかからないよう診療体制にいろいろと試行錯誤してきましたが、いい経験にもなっている気がします。(岡山)

◇昨年は、相変わらずのコロナ不景気の中、公私共にいろいろあった年でした。俳句とも向き合い、広報委員のデューティをこなし、娘の小学校のPTAの役員の仕事も重なりました。母との永別もありました。今年は去年の経験を糧にさらに良い年にしたいと思います。(藤村)

多くの先生方にご加入頂いております！

お申し込みは
随時
受付中です

医師賠償責任保険

所得補償保険

団体長期障害所得補償保険

傷害保険

詳しい内容は、下記お問合せ先にご照会ください

取扱代理店 山福株式会社
TEL 083-922-2551
引受保険会社 損害保険ジャパン
株式会社
山口支店法人支社
TEL 083-231-3580



損保ジャパン



HIPPOCRATES

医の倫理綱領

日本医師会

医学および医療は、病める人の治療はもとより、人びとの健康の維持もしくは増進を図るもので、医師は責任の重大性を認識し、人類愛を基にすべての人に奉仕するものである。

1. 医師は生涯学習の精神を保ち、つねに医学の知識と技術の習得に努めるとともに、その進歩・発展に尽くす。
2. 医師はこの職業の尊厳と責任を自覚し、教養を深め、人格を高めるように心掛ける。
3. 医師は医療を受ける人びとの人格を尊重し、やさしい心で接するとともに、医療内容についてよく説明し、信頼を得るように努める。
4. 医師は互いに尊敬し、医療関係者と協力して医療に尽くす。
5. 医師は医療の公共性を重んじ、医療を通じて社会の発展に尽くすとともに、法規範の遵守および法秩序の形成に努める。
6. 医師は医業にあたって営利を目的としない。



発行：一般社団法人山口県医師会（毎月 15 日発行）

〒 753-0814 山口市吉敷下東三丁目 1 番 1 号 TEL：083-922-2510 FAX：083-922-2527

ホームページ：http://www.yamaguchi.med.or.jp E-mail：info@yamaguchi.med.or.jp

印刷：株式会社マルニ 定価：1,000 円（会員は会費に含む）